

九十九里町
地域公共交通計画

(案)

2024 - 2028

人、自然、原土が生きる海浜文化都市

 **九十九里町**
Kujukuri Town

目 次

I	計画の概要	1
1.	背景・目的	1
2.	計画の位置づけ	2
3.	計画の区域	2
4.	計画期間	2
II	地域および公共交通の現状	3
1.	地域の概況	3
2.	まちづくりの上位・関連計画等	23
3.	公共交通等の現状	25
III	町民等の外出状況・意識等	35
1.	町民へのアンケート	35
2.	バス利用客へのアンケート	53
3.	タクシー利用客へのアンケート	58
4.	観光客へのアンケート	64
IV	今後に向けた課題	69
1.	九十九里町の現状・問題等の要点	69
2.	今後に向けた課題・着眼点	72
V	九十九里町の公共交通がめざすべき姿・方向性	74
VI	今後に向けた取り組み（事業）	76
1.	取り組み（事業）の体系	76
2.	各取り組み（事業）の内容	78
3.	将来の公共交通ネットワーク	92
VII	今後の進め方	94



1. 背景・目的

本町の公共交通については、東金市、山武市、大網白里市へつながる路線バス、東京や千葉市等の都心へつながる高速バス、これらを補完するタクシーが運行しており、これまで、町や運行事業者による種々の取り組みを行ってきました。しかしながら、昨今、人口減少の本格化、町民のクルマ中心の外出スタイルや、運行事業者の乗務員不足の深刻化等にとともない、利用客の減少、運営の悪化、サービス縮小の悪循環を引き起こし、公共交通の確保・持続が厳しい状況となっています。

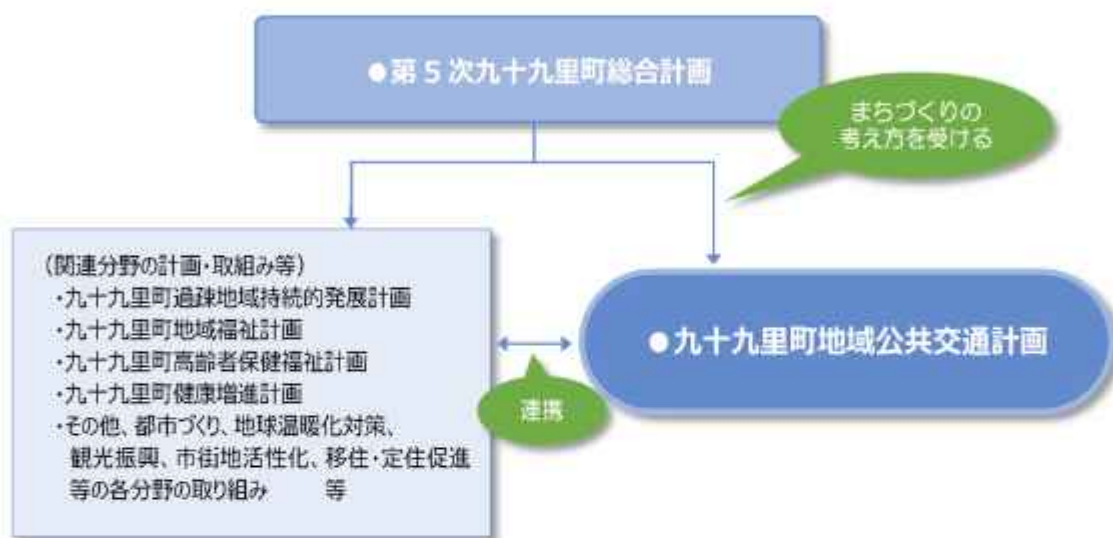
その一方、本町では、高齢化率がすでに40%を超え今後も進む見通しであり、クルマに依存していた多くの高齢者が運転免許を返納することも想定され、暮らしやまちづくりを支える公共交通の役割は、ますます重要になると考えられます。しかし、町内にはバスが運行していない地区が残っており、バスがあっても利用する町民が少なく満足度が低い等の現状にあります。

このような中、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」(平成19年(2007年)法律第41号)が平成26年(2014年)、令和2年(2020年)、さらに令和5年(2023年)に一部改正され、地域の関係者の連携・協働(共創)を通じ、利便性・持続可能性・生産性の高い地域公共交通へ再構築を進めることとされています。また本町のまちづくりの最上位計画である「九十九里町総合計画」においても、「公共交通の利用促進」(持続への支援の強化、利用環境の向上、町民への周知、意識の醸成)、「交通手段の充実」(高齢者等の交通サービス等の支援)を主な取り組みとして掲げています。

これらの背景から、この度、本町にとって望ましく持続可能な地域公共交通の実現に向け、町民・利用客、各公共交通の運行事業者、各分野の関係者・行政等が一体となって取り組みを進められるよう、今後の取り組みの方向性、考え方を示すマスタープランとして「九十九里町地域公共交通計画」を策定しました。

2. 計画の位置づけ

「九十九里町地域公共交通計画」は、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づくとともに、本町のまちづくりの最上位計画である総合計画の考え方をふまえた計画であり、各分野の関連計画や取り組みとの連携を図りながら進める計画です。



3. 計画の区域

本計画の計画区域は、**九十九里町全域** とします。

4. 計画期間

本計画の計画期間は、**令和6年度(2024年度)～令和10年度(2028年度)**の5年間とします。



1. 地域の概況

九十九里町の地勢、人口、施設立地等に関する地域の状況は、以下のとおりです。(以下は、基礎調査期間に入手可能な情報をもとに整理したものです。)

1-1. 位置・地勢

- 九十九里町は千葉県の東部、九十九里浜のほぼ中央に位置しており、北は山武市、西は東金市、南は大網白里市に接し、東は九十九里浜で太平洋に面しています。
- 東京都心から 60km 圏にあり、千葉市等の都市部や成田空港の至近に位置しています。
- 面積約 24km² のほとんどは平坦な海岸平野で、町域には約 1 万 5 千人が暮らしています。



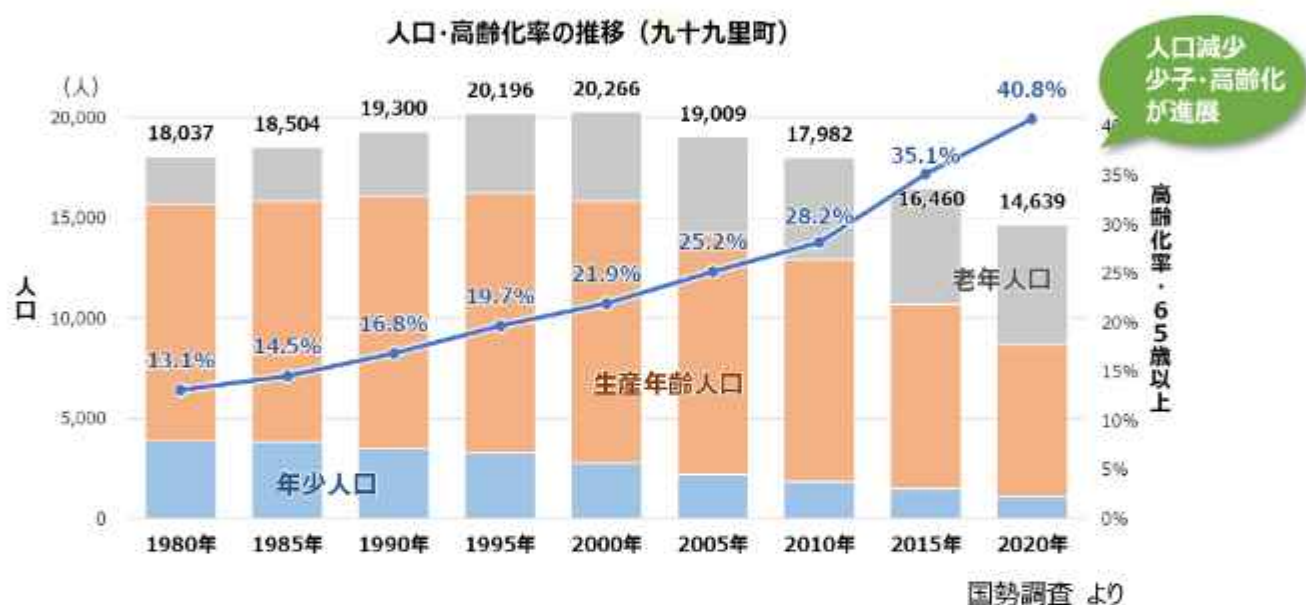
九十九里町



1-2. 人口等の状況

(1) 人口の推移

- 本町の人口は2000年を境に減少に転じており、現在の総人口は1万5千人以下となっています。
- また、少子・高齢化が急速に進んでおり、年少人口の減少、老年人口の増加が顕著です。高齢化率は40%を超えています。高齢化が進むことにより、外出手段の確保が今後ますます重要になるものと考えられます。



(2) 世帯数の推移

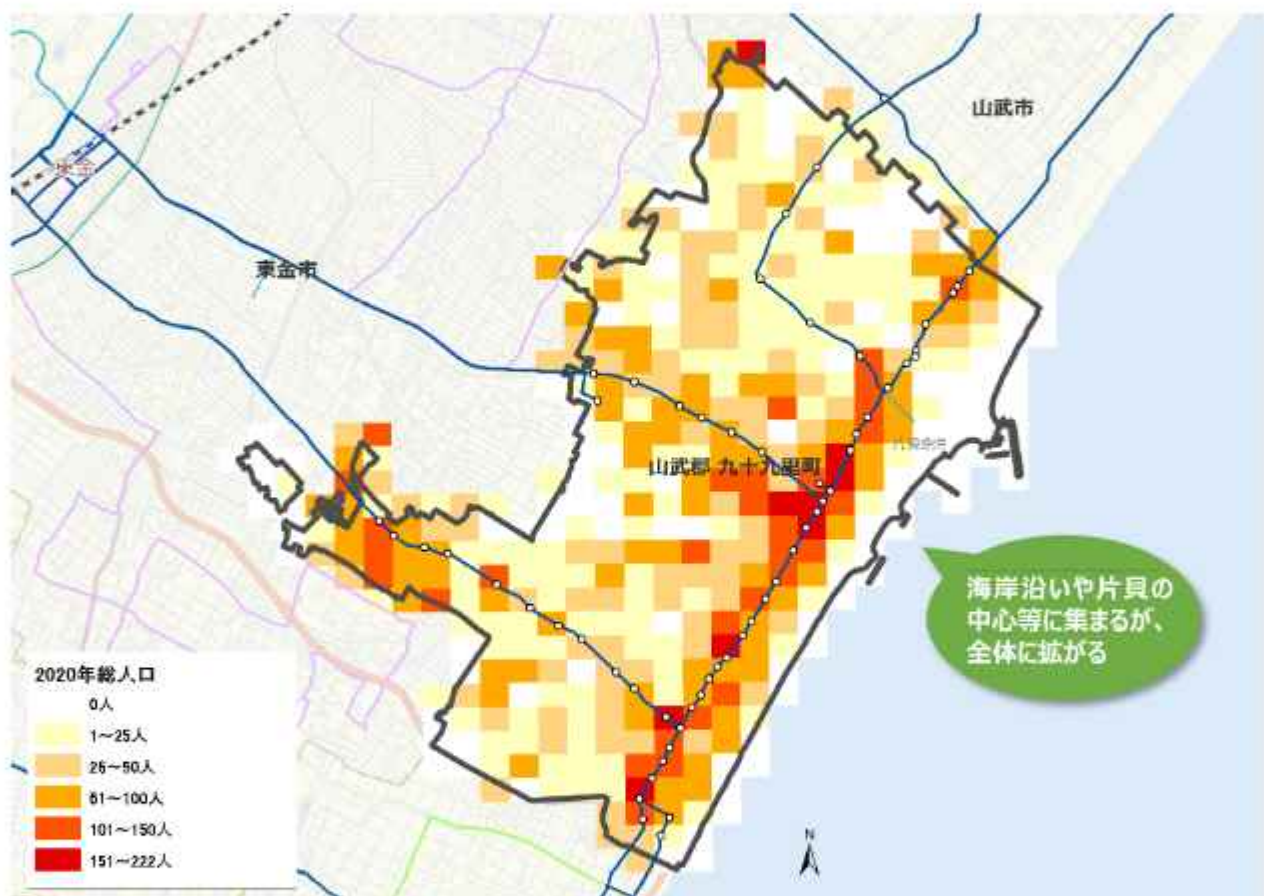
- 本町では、世帯数も減少していますがその傾向は人口より緩やかで、世帯当たりの人数が減少しています。世帯の構成が変化することで、家族や地域での助け合い等に影響する可能性があります。



(3) 人口の分布状況

1) 人口の分布

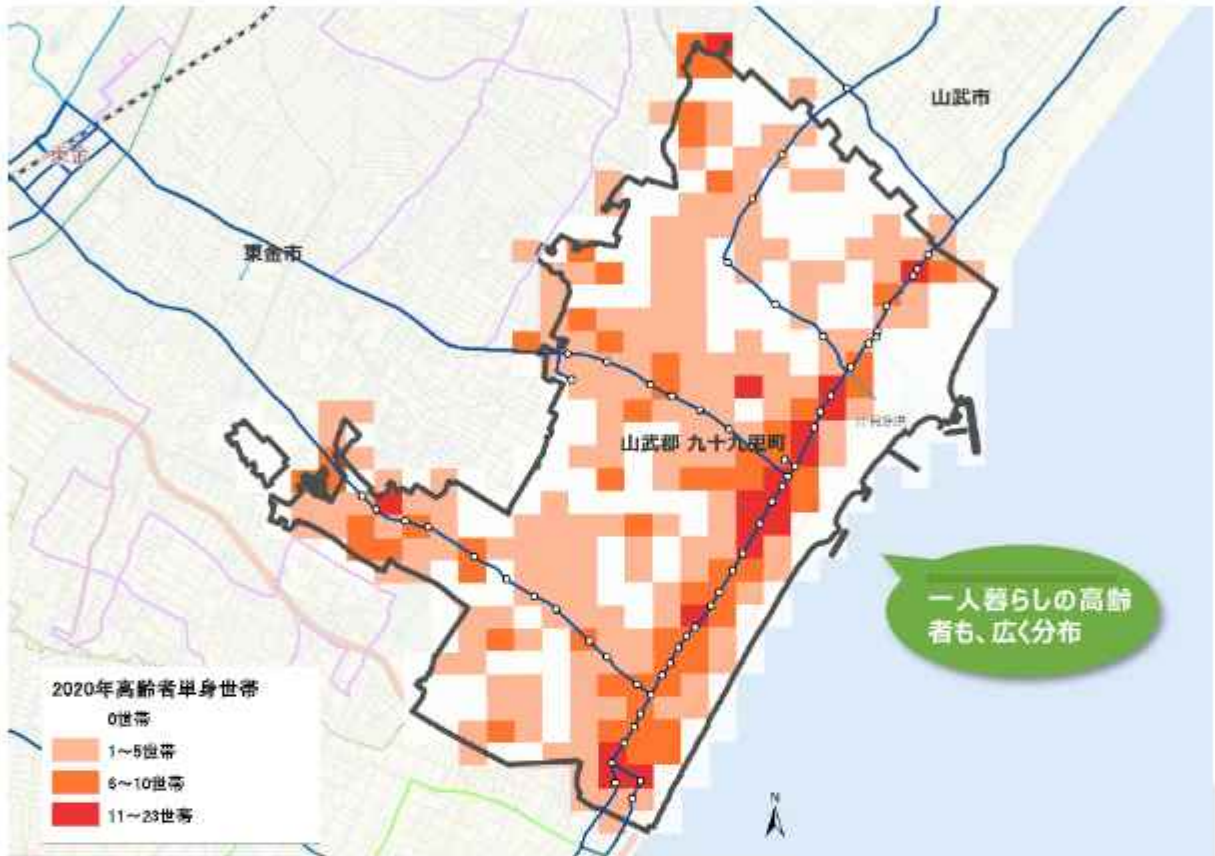
- 本町の人口は、海岸沿いの東側や、町役場、九十九里病院などが立地する片貝地域の中心等に集まっています。ただし、西側、北側の地域にも人口が分布しており、居住地が町域全体に拡がっている状況です。



国土数値情報（国勢調査・令和2年）より

2) 一人暮らしの高齢者の分布

- 総人口の分布状況と同様に、一人暮らしの高齢者の人口も、海岸沿いの東側に集まる一方、町域に広く分布している状況です。



国土数値情報（国勢調査・令和2年）より

(4) 将来人口等

1) 将来人口の見通し

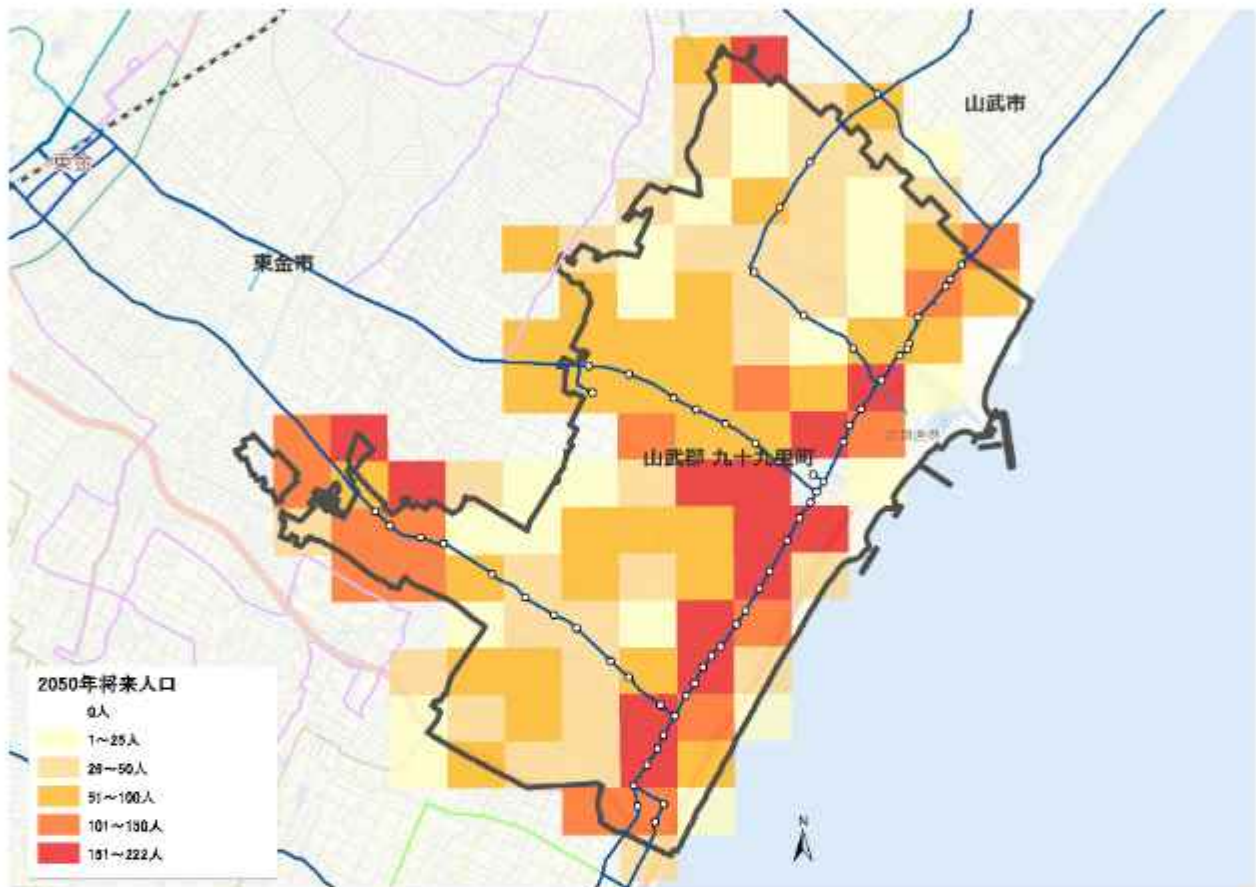
- 将来人口の推計によると、現在の傾向が続いた場合、本町の人口は今後も減少し、総人口が1万人を下まわる見通しです。
- 少子・高齢化も進み、65歳以上の高齢化率は5割を超えるものと見込まれています。また3人に1人が75歳以上となる見通しです。



国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所推計より

2) 将来の人口分布 (2050年)

- 本町の将来の人口は全体として減少の見込みですが、人口分布の傾向は、現在同様に海岸沿いの東側の地域に人口が集まる一方、居住地が広く薄く分布する状況となる見込みです。



国立社会保障・人口問題研究所推計より

1-3. 主な施設の立地状況

(1) 主な公共施設

- 本町の町役場、中央公民館、野球場等は、町の中心エリア（片貝）に集まって立地しています。
- 海岸沿いには複数の町営駐車場、いわし資料館（海の駅九十九里内）があります。
- 真亀川総合公園は南西部（豊海小学校区内）に、ちどりの里（介護予防拠点施設）は北東部（九十九里小学校区内）に立地しています。



国土数値情報に情報を追加して作成

(2) 主な店舗等

- 町内にはスーパー、ドラッグストアが複数立地しており、多くの町民が利用しています。
- ただし町内の店舗数は限られており、隣接する山武市や、東金市の大型店へも多くの町民が日常的な買い物に出かけています。
- これらの店舗には、いずれも広い駐車場があります。また大半の店舗の近傍にはバス停がありますが、ランドローム（本町内）の近傍にバス停はありません。



(3) 主な医療施設

- 町内の総合病院として九十九里病院があり、その他に複数の診療所が立地しています。これらの近傍にはバス路線がありますが、バス停はやや離れた場所にあります。
- 隣接する東金市の本町近傍に浅井病院があり、本町の町民も利用しています。このほか東千葉メディカルセンター（東金市）、さんむ医療センター（山武市）等が、本町から離れた場所に立地しています。



(4) 学校

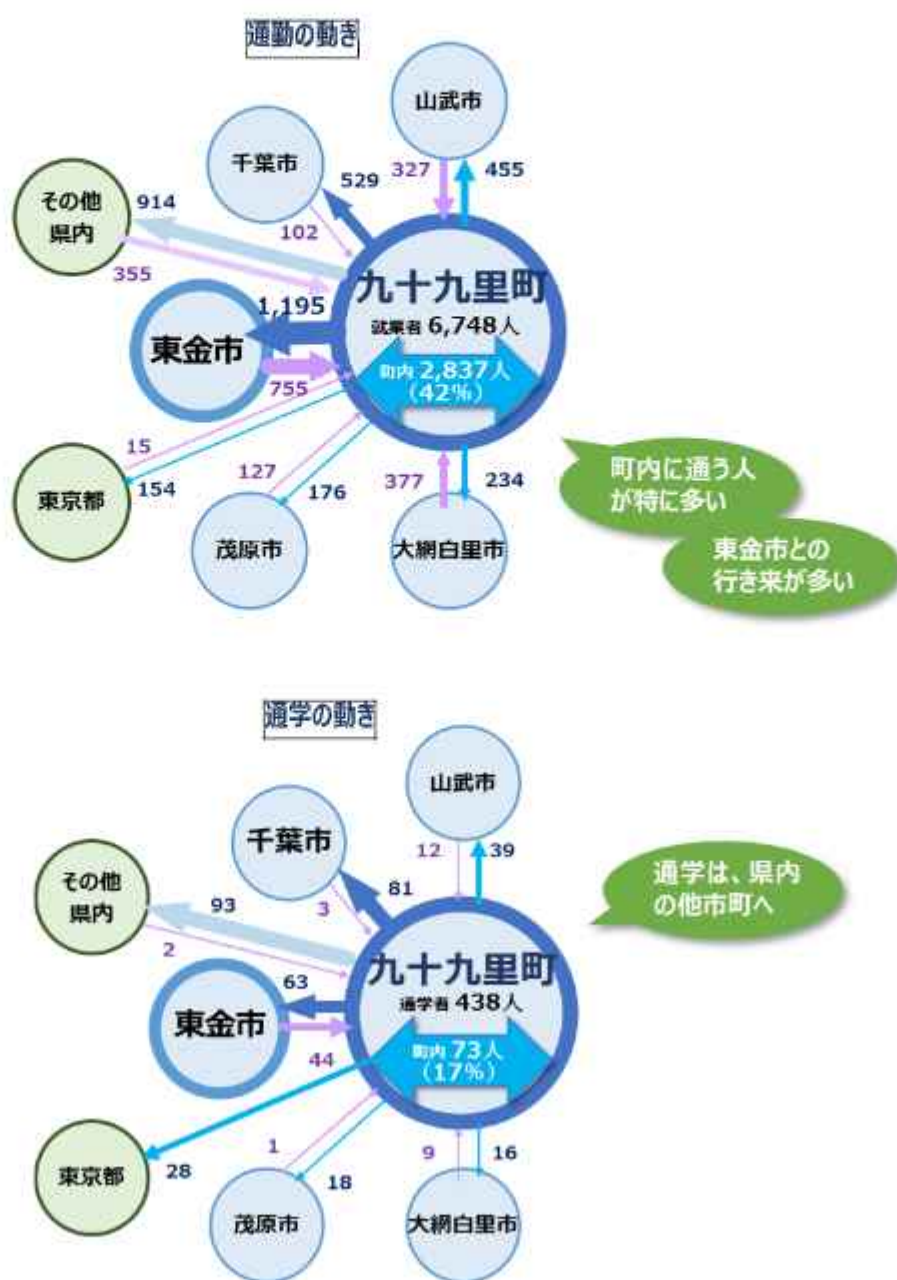
- 本町には高校、中学校が1校ずつあり片貝の西寄り（市町境付近）に隣接して立地しています。時間帯によって、高校に路線バスが乗り入れています。
- 小学校は、町内に3校あります。



1-4. 町民の外出等の状況

(1) 通勤・通学

- 通勤をする町民の約 4 割が、本町内へ通っています。町外では東金市へ通う人が特に多くなっています。
- 通学（15 歳以上）では、立地する高校が 1 校であるため町内へ通う人は 2 割弱であり、県内の他市町の学校に通う人が多くなっています。
- なお、町外から本町への通勤・通学では、東金市から通う人が比較的多くなっています。



国勢調査（令和 2 年）より

・通勤・通学の交通手段

- 町民の通勤・通学の交通手段は、町内・町外ともクルマ（自家用車）が突出して多い状況です。
- 町内の通勤・通学では、徒歩、自転車、通う人がそれぞれ1割程度見られます。町外への通勤・通学では、鉄道で通う人が若干見られます。
- 町内、町外のいずれも、バスを利用して通っている町民はきわめて少ないのが現状です。

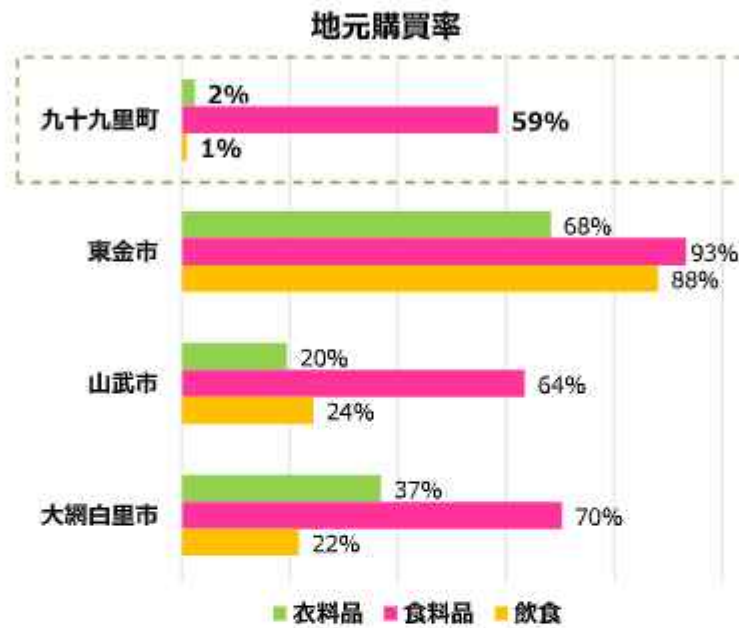
通勤・通学の利用交通手段（九十九里町民）



国勢調査（令和2年）より

(2) 買い物の状況

- 町民の買い物先について、食料品では町内で買い物する人が半数以上となっています。町内の店舗数が限られているため、衣料品の買い物や飲食では町外へ出かける町民が大半です。
- 山武地域に住む人の大半が、買い物に出かける際、クルマ（自家用車）を使っている状況です。



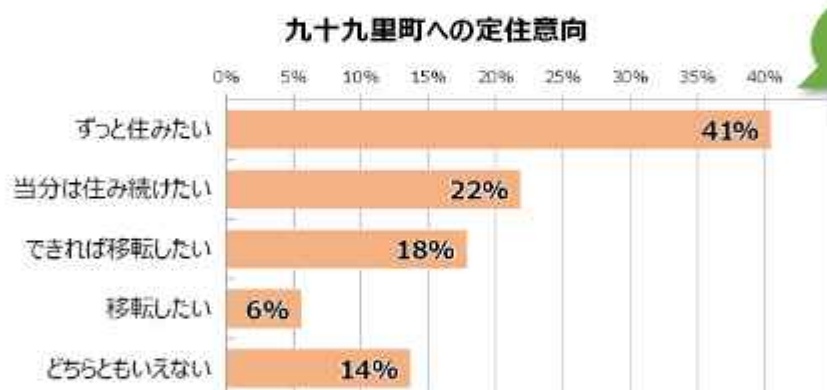
店舗への交通手段（山武ブロック在住者）



消費者購買動向調査（平成 30 年・千葉県）より

1-5. 町民の定住意向等

- 町民の意識では、本町が住みよいと感じる人が比較的多く、定住意向は高い状況です。
- 本町から移転したいという人の中では、交通が不便との理由が最も多くなっています。



町民の定住意向は高い



交通が不便との意識

総合計画の町民アンケートより

1-6. 自動車利用の状況

(1) 自動車利用の状況

・自動車の保有台数

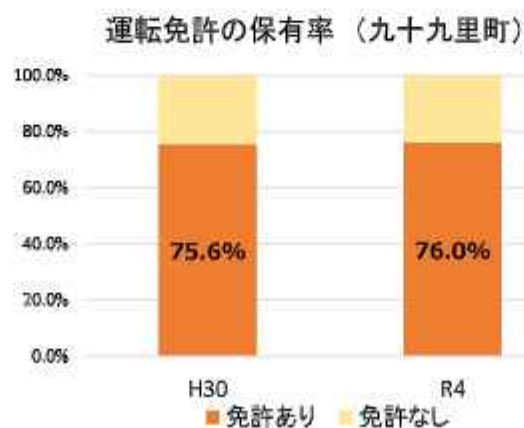
- 本町の人口は減少していますが、自動車の台数は横ばいの状況にあり、世帯当たりの台数、1人当たりの台数は増加している状況です。



千葉県統計年鑑より算出
(軽自動車を含む自動車の合計台数)

・運転免許証の保有状況

- 本町の人口に占める運転免許証保有者の割合は横ばいであり、8割近くの町民が免許を持っています。



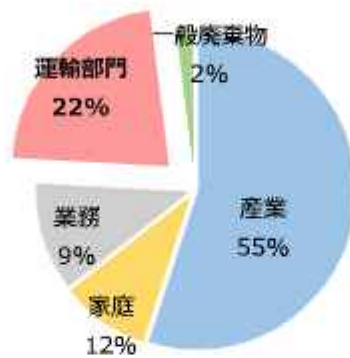
免許保有率は
高い状態で
横ばい

千葉県警資料より算出
(16歳以上の人口に占める割合)

(2) 地球環境面

- 本町のCO²排出量のうち2割を運輸部門が占めています（運輸部門の排出量のほとんどは、クルマ（自動車）によるものと考えられます）。本町の運輸部門による排出量の占める割合は、千葉県全体の割合よりも高い状況です。

部門別CO₂排出量推計（九十九里町）



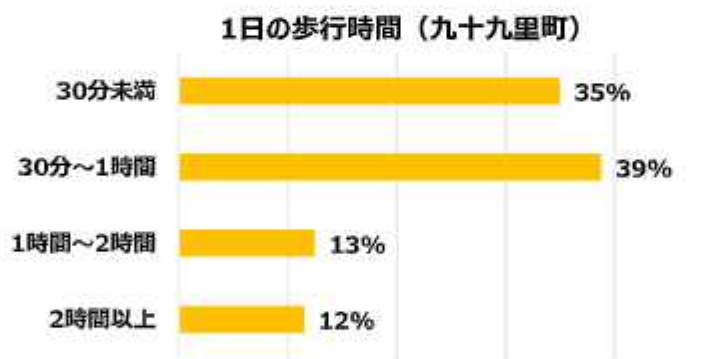
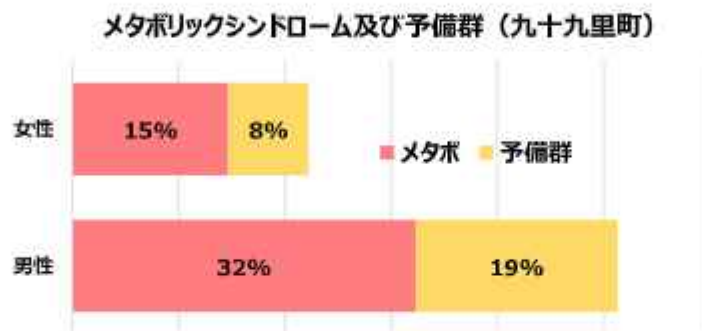
部門別CO₂排出量推計（千葉県）



環境省 2020 年度都道府県別推計データより

(3) 健康面

- 町民のうちメタボリックシンドローム該当者の割合は特に男性で高い傾向にあります。日常的に歩く時間の少ない町民が多く、ドアツードアであるクルマ中心の行動スタイルが影響している可能性もあります。



九十九里町健康増進計画より

(4) まちなかの賑わい等の状況

- 本町では、ドアツードアの移動となるクルマ中心の外出スタイルが定着しており、町の中心に位置する片貝付近の道路も、クルマの通行があるのに対し歩く人はほとんど見られません。かつての九十九里鐵道の上総片貝駅はバス停になり、線路跡地は「きどうみち」として整備されています。



1-7. 観光の状況

(1) 主な観光資源

- 九十九里浜には複数の海水浴場があります。付近に「海の駅九十九里」、「サンライズ九十九里」等の施設もあり、レジャー、観光で多くの人々が来訪しています。



国土数値情報に情報を追加して作成

(2) 観光入込状況

- 本町の観光入込客数は変動が大きく、近年は徐々に増加していましたが、コロナ禍での落ち込みがありました。現在は観光客のうち日帰り客が多く、宿泊客は減少しています。
- なお、レジャー・観光での来訪客の多くは、クルマで来訪している状況です。

観光入込客数の推移（九十九里町）



千葉県観光入込調査 より



観光客も、多くはクルマでの来訪

2. まちづくりの上位・関連計画等

(1) 総合計画（本町のまちづくりの最上位計画）

- 本町のまちづくりの最上位計画である「第5次九十九里町総合計画」では、“快適に暮らせる基盤づくり”の施策の一つとして「公共交通の充実」を掲げており、「公共交通の利用促進」（存続への取り組みの強化、利用環境の向上、町民への周知、意識の醸成）、「交通手段の充実」（高齢者等の交通サービス等の支援）を主な取り組みとしています。

第3章 安全・安心に快適に暮らすまちづくり

政策1 災害に備える地域づくり

- | | | |
|----|---|----------|
| 施策 | 1 | 防災体制の充実 |
| | 2 | 地域防災力の向上 |
| | 3 | 消防体制の充実 |

政策2 快適に暮らせる基盤づくり

- | | | |
|----|---|------------------|
| 施策 | 1 | 道路環境の整備 |
| | 2 | 公共交通の充実 |
| | 3 | 情報通信基盤の整備 |
| | 4 | 空き家の利活用と移住・定住の促進 |
| | 5 | 地域安全の推進 |

〈主な取組〉

1 公共交通の利用促進

存続への取り組みの強化、利用環境の向上。町民への周知、意識の変化を促しながら、公共交通の利用促進を図る。

2 交通手段の充実

本町にあった交通弱者対策に取り組む。

政策3 自然環境を守る地域づくり

- | | | |
|----|---|------------|
| 施策 | 1 | 自然環境の保全 |
| | 2 | 資源の循環利用の促進 |
| | 3 | 環境美化の促進 |

(2) 関連計画等

●本町の関連計画として、九十九里町過疎地域持続的発展計画では、総合計画を踏襲した考え方が示されています。その他、都市づくり、地球温暖化対策、健康増進、高齢者福祉、観光振興、まちの賑わい、定住・移住の促進、子育て支援等の分野においても総合計画にもとづく考え方による取り組みが行われており、公共交通が寄与できることがあると考えられます。

●九十九里町過疎地域持続的発展計画

- ・移住・定住・地域間交流の促進、人材の確保・育成
- ・産業の振興
- ・地域における情報化
- ・交通施設の整備、交通手段の確保の促進
- ・生活環境の整備
- ・子育て環境の確保、高齢者等の保健及び福祉の向上及び増進
- ・医療の確保
- ・集落の整備
- ・再生可能エネルギーの利用の推進

- ・公共交通の利用環境の向上と、住民への周知
地域公共交通に愛着を持ち、共に守るという意識の醸成
- ・高齢者や障がい者、子育て世帯が地域で生活できるよう、交通手段の充実や支援
- ・J R東金線複線化促進協議会による利便性向上、交通弱者対策
- ・九十九里町公共交通計画の策定

●その他の関連計画

- ・九十九里町地域福祉計画
(「支え合って共に育む 心つながるまち 九十九里」の実現のため、地域福祉の推進・充実をめざす)
- ・九十九里町高齢者保健福祉計画
(高齢者が住み慣れた地域で健やかに、安心して暮らせるようにすることをめざす)
- ・九十九里町健康増進計画
(誰もが健康で心豊かに生活できるまちの実現をめざす)
- ・九十九里町地球温暖化対策実行計画
(温室効果ガス排出量の削減目標の実現に向けて様々な取り組みを行う模範となり、地球温暖化対策の推進を図る)

等

3. 公共交通の現状

3-1. 公共交通ネットワーク

- 本町に鉄道駅はなく、路線バスが本町と東金駅、成東駅、大網駅等との間をつないでいます。
- 路線バスは、複数の事業者が運行しています。九十九里鐵道（片貝線・豊海線）は、本町と東金市方面との間を、ちばフラワーバス（海岸線）は、本町と山武市方面との間を運行しています。
- 高速バスは、白子～東京線・千葉～白子中里線（小湊鐵道）、九十九里ライナー（九十九里鐵道）があり、本町と東京駅、千葉駅方面をつないでいます。
- バス等の補完として、タクシーが運行しています。



3-2. 路線バス・高速バス

(1) バス等の利用圏域

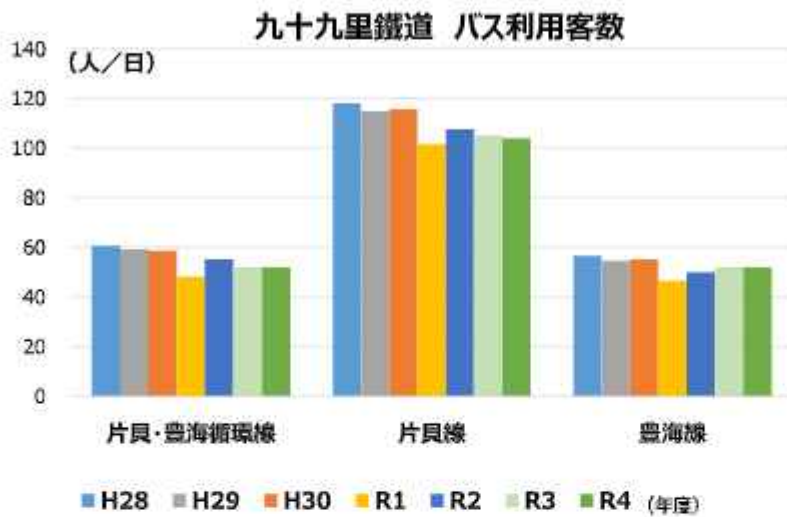
- 本町には、複数の事業者による路線バス、高速バスが運行しています。
- 町域に広く薄く拡がっている居住地を、路線バスのような公共交通でカバーするには限界があり、バス停の利用圏域以外にも人口が分布している状況です。ただしバス路線は、人口の集まる地区を概ね通っており、本町全体の人口の7割以上をカバーしています。



* 人口カバー率：居住地でみて、どれぐらいの人口が、公共交通の利用圏域内にあるのかを試算した値です。

(2) 路線バス・高速バスの利用状況

- 本町を運行する路線バス、高速バスの利用客数は以前から減少傾向にありましたが、コロナ禍でさらに落ち込んでいます。特に高速バスは大きく落ち込みましたが、その後、回復傾向にあります。一方、路線バスは、コロナ禍の前と比べて減少している状況です。

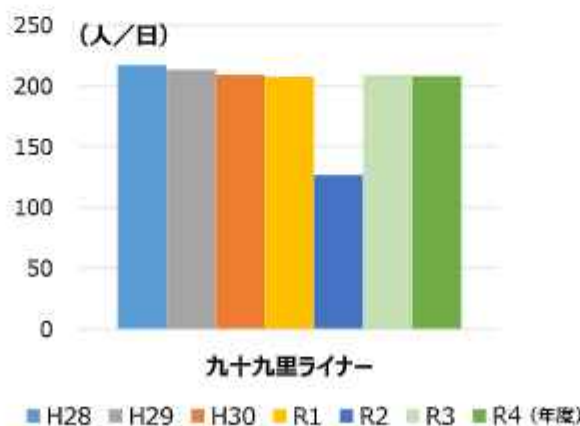


バスの利用客は、以前から減少傾向

コロナ禍で、さらに落ち込み



九十九里ライナー 利用客数



(バス事業者資料より)

(3) 路線バス・高速バスの利用状況（詳細）

・九十九里鐵道（片貝線・豊海線、九十九里ライナー）

- 九十九里鐵道の片貝線・豊海線のいずれも、平日と比べ、学校や医療機関等が休みとなる休日の利用客数が少ない傾向があります。
- 九十九里鐵道のバス定期券購入者は、大半が「東金駅」との間の区間を利用しています。



参考：九十九里鐵道のバス定期券の購入実績（九十九里町の路線：2023年4月）

*町外を含む

・購入数 34 人

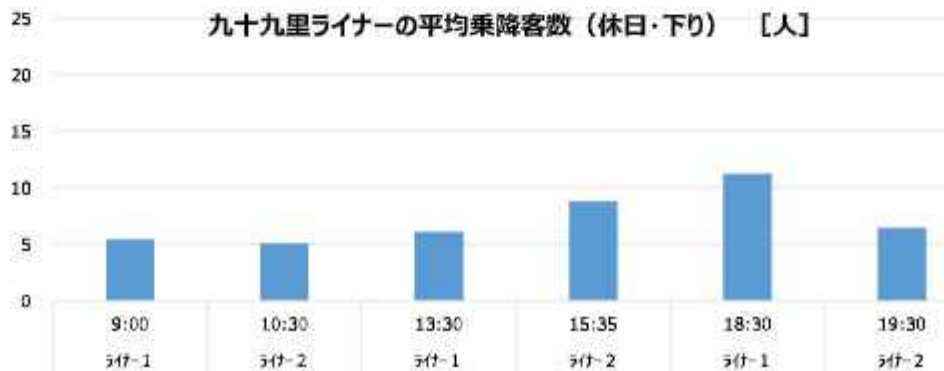
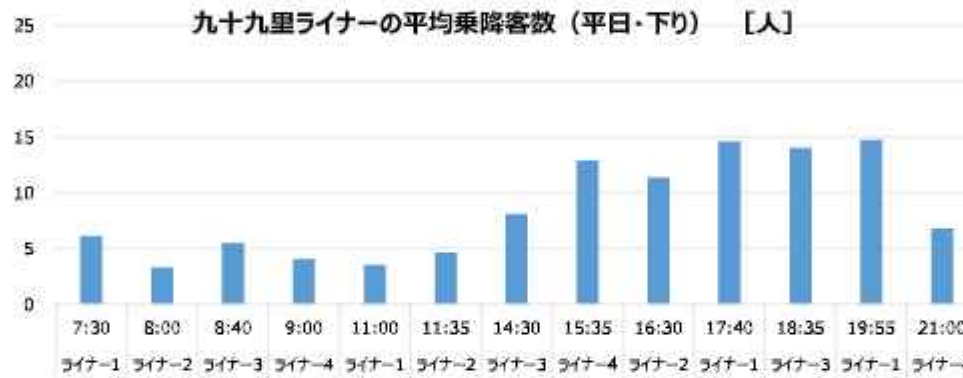
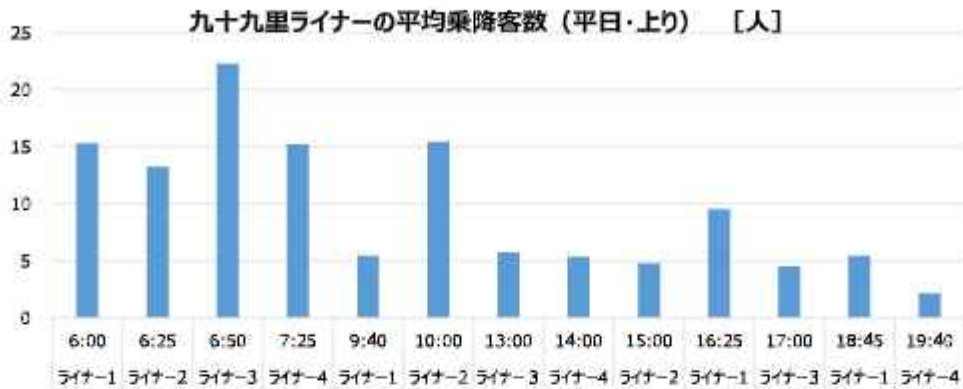
うち、定期券区間

町内から遠い側のバス停： 東金駅 29 人、千葉駅 3 人

町内側のバス停： 九十九里高校 4 人、九十九里学園 3 人、九十九里町役場 3 人
(その他は 2 人以下)

(バス事業者資料より)

- 九十九里ライナーの利用客数は、休日よりも平日の方が多くなっています。
- 平日・休日ともに上りでは朝の時間帯、下りでは夕方の時間帯で乗降客数が多くなっており、当地域の居住者の利用が多いものと考えられます。



令和5年2月の実績
(バス事業者資料より)

・ちばフラワーバス（海岸線）

- ちばフラワーバス海岸線については、路線全体の乗降客数のうち、九十九里町内のバス停の乗降客が少数であり、山武市での乗降客数が多くを占めています。
- ただし休日においては、九十九里町内での乗降客数が増える傾向があります。

ちばフラワーバス（海岸線）乗降客数

【平日】 調査日4日の結果



ちばフラワーバス（海岸線）乗降客数

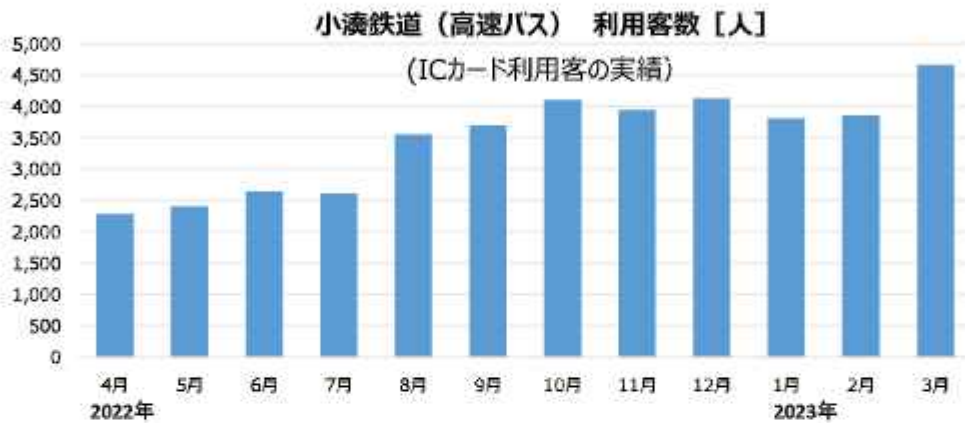
【休日】 調査日4日の結果



令和5年調査日の結果
(バス事業者資料より)

・小湊鐵道（高速バス：九十九里町経由）

- 本町に発着する小湊鐵道の高速バスの、年間の利用客数（ICカード）は約4万1千人です。そのうち約5千人がサンライズ九十九里からの乗車客です。同数の降車客がいると想定した場合、全体の4分の1（約1万人）がサンライズ九十九里の乗降客であることとなります。



参考：小湊鐵道（高速バス：九十九里町経由） 2022年4月～2023年3月

・年間ICカード利用客数：約4万1千人

うち、サンライズ九十九里での乗車客：約5千人

(サンライズ九十九里での降車客は含まない)

(バス事業者資料より)

3-3. タクシー

(1) タクシー営業所

- 本町内には、1社のタクシー営業所が立地しており、タクシーが、路線バス等を補完する役割を担っています。



(有) 片貝タクシー

所在地：九十九里町片貝、車両台数4（普通車）

(タクシー協会資料より)

(2) タクシーの利用状況

・タクシーの利用状況

- タクシーの利用客数は横ばいの状況でしたが、コロナ禍で大きく落ち込みました。
- 実車走行 1 回当たりの利用客数は 1.5 人前後であり、1 人での利用が多いものと見受けられます。1 回当たり走行距離は、徐々に短くなる傾向にあります。



(タクシー事業者資料より)

・タクシー実証実験（タクシー利用助成）の状況

- 本町では、公共交通が存在しない地域の解消に向け、今後の検討材料とするため、「タクシー利用助成」の実証実験を行っています。（対象は、作田丘地区または真亀丘地区にお住まいの方で、75歳以上の方、及び65歳以上の方で運転免許証を自主返納した方）
- 利用時の行先をみると、病院への行き帰りでの利用が多いものと見受けられますが、買い物等での利用もあります。また、一人で乗車する人が多数となっています。



(R5 年度実績より)





町民等の外出状況・意識等



町民等の外出や利用交通手段、意識の状況などを把握するため、町民やバス・タクシー利用者、観光客へのアンケートを行いました。以下に結果の概要を示します。

1. 町民へのアンケート

1-1. 調査の実施概要

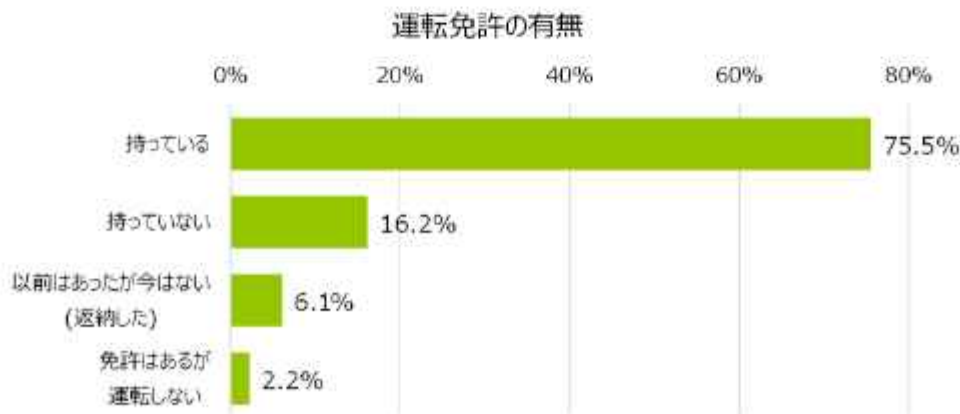
- 【調査対象】 九十九里町民（15歳以上）から、3000人を無作為抽出
- 【調査期間】 令和5年（2023年）10月～11月（予定より期間を延長）
- 【調査方法】 郵送配布、郵送回収
- 【回答者数】 1167人（回収率39%）

1-2. 主な調査結果

《外出手段の状況》

（1）運転免許の保有状況

- 回答者（町民）のうち、7割以上が運転免許を持っており、クルマを運転している状況です。



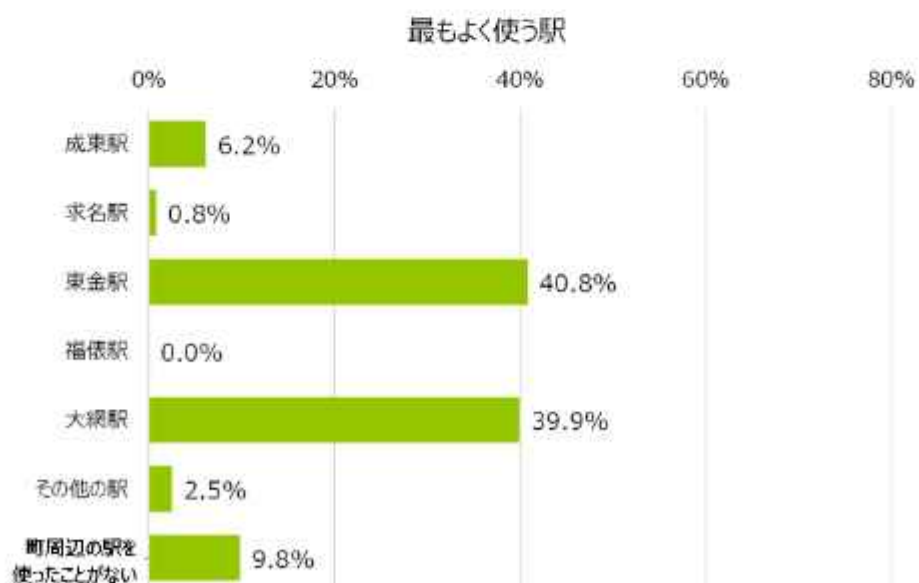
(2) 自宅からバス停までの距離

- 自宅からバス停までの距離については、300m 程度までの回答者が計 5 割であり、500m 程度まで含めると計 7 割程度となっています。



(3) 最もよく使う駅

- 駅については、東金駅と大網駅が最も多く使われている状況です。



(4) 最もよく使う駅が最寄り駅ではない人の理由

- 最もよく使う駅が、最寄り駅ではないことについては、電車を乗り継がなくて済む、駅前に駐車場がある、快速・急行が停まるとの理由が特に多くなっています。主に鉄道の利便性のほか、クルマの利便性の面から、使う駅が選択されている状況です。



(5) 駅までのアクセス手段

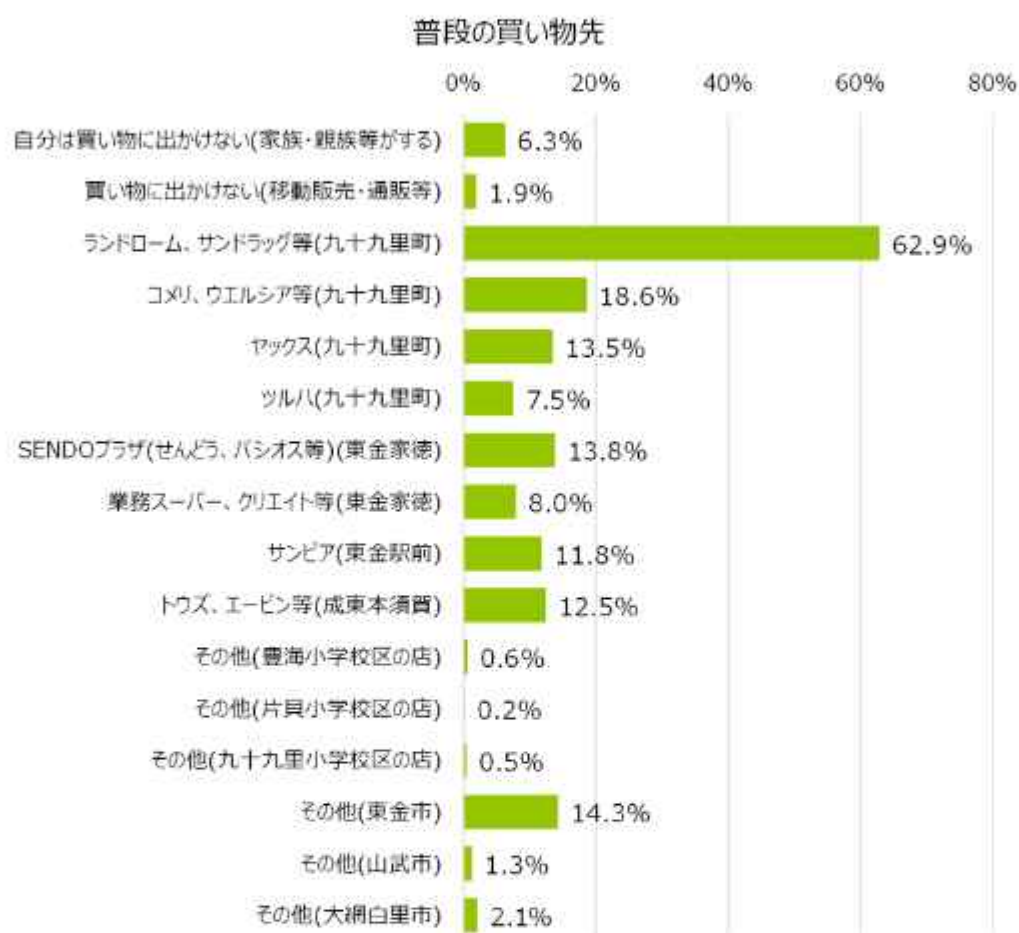
- 駅を使う場合のアクセス手段は、クルマ（自分で運転）が突出して多く、送迎・同乗を含めると、7割以上をクルマが占めています。
- 駅まで路線バスを利用する回答者は、2割程度で少ない状況です。



《ふだんの外出の状況》

(1) ふだんの買い物先

- 回答者のふだんの買い物先は、町内の店舗が多くを占めていますが、隣接市（東金市、山武市）の店舗に出かける回答者も少なくありません。



(2) ふだんの買い物の外出手段

- ふだんの買い物の外出手段は、クルマ（自分で運転）が約7割で突出して多くなっており、多くの町民がクルマ中心の外出スタイルとなっています。その他ではクルマ（送迎・同乗）、自転車が比較的多く、バスやタクシーの利用は少ないのが現状です。



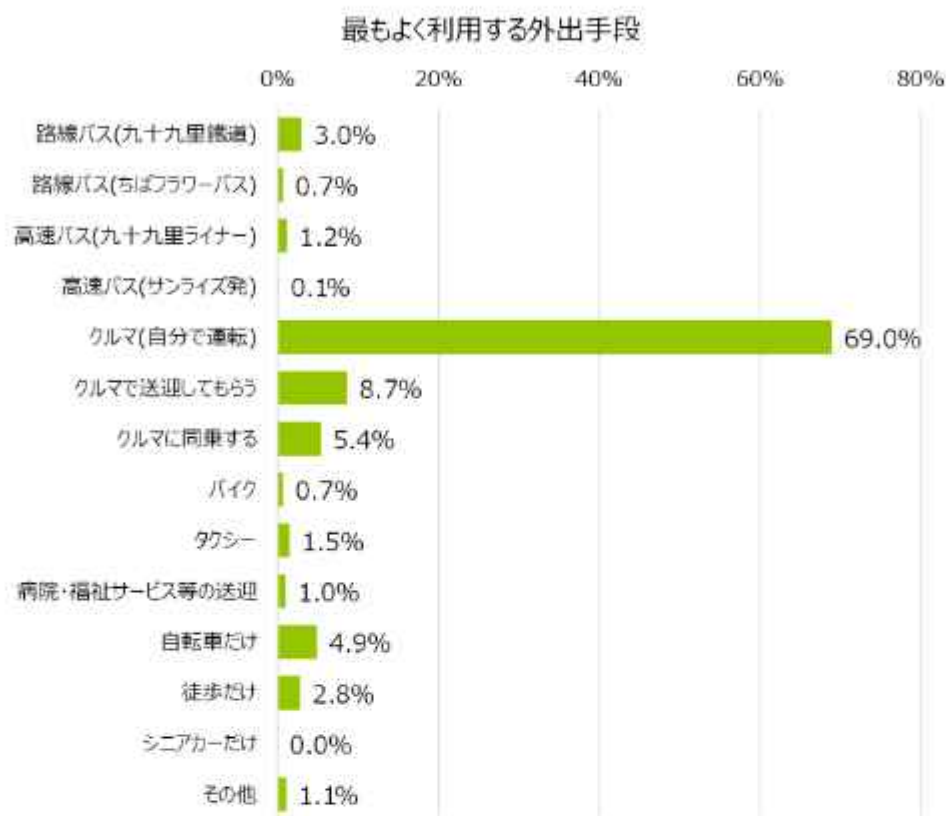
(3) ふだんの通院先

- ふだんの通院先は、町内のほか、隣接市（東金市、山武市等）などの多数の診療所、病院が挙げられています。



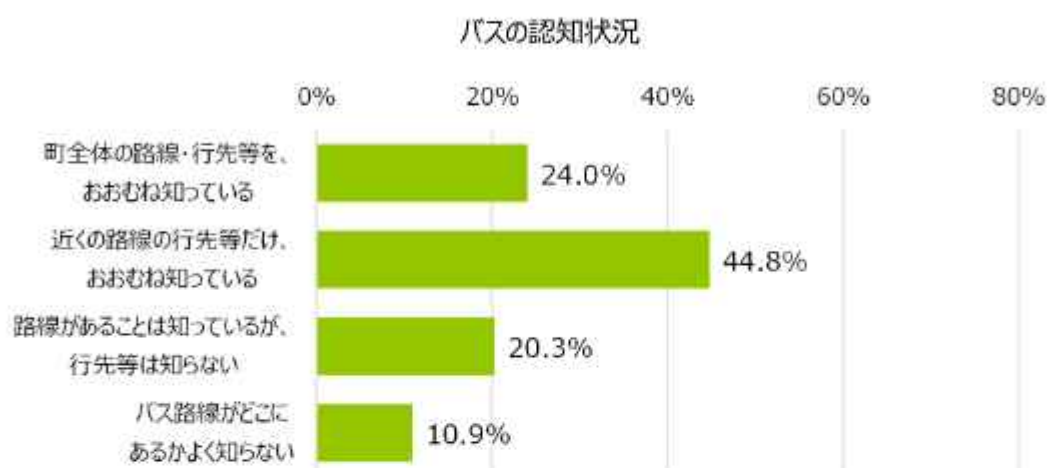
(4) ふだんの通院の外出手段

- 通院の外出手段も、クルマ（自分で運転）が約7割を占めています。その他でも、クルマ（送迎・同乗）、自転車が比較的多く、バスやタクシーの利用は少ない状況です。



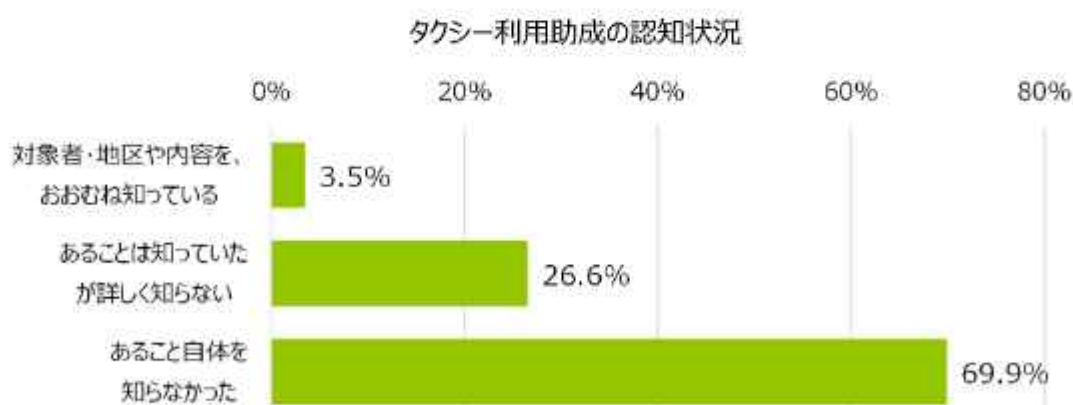
(5) バスの認知状況

- 本町の路線バス、高速バスについて、近くの路線だけを知っている回答者が最も多く、町全体の路線・行き先を知っている人は、2割程度にとどまっています。行き先を知らない人、路線がどこにあるか知らない人が計3割となっており、町内のバスの認知度は高くない状況です。



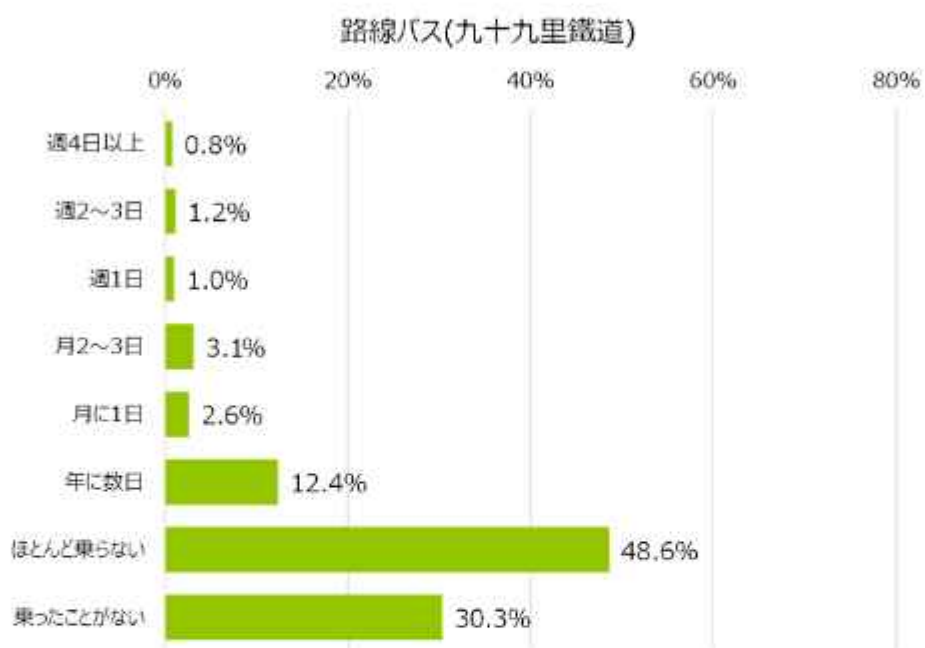
(6) タクシー利用助成（実証実験）の認知状況

- 現在、バス等の公共交通のない地区を対象に実証実験として行っているタクシー利用助成のことを詳しく知っている回答者は1割未満となっています。

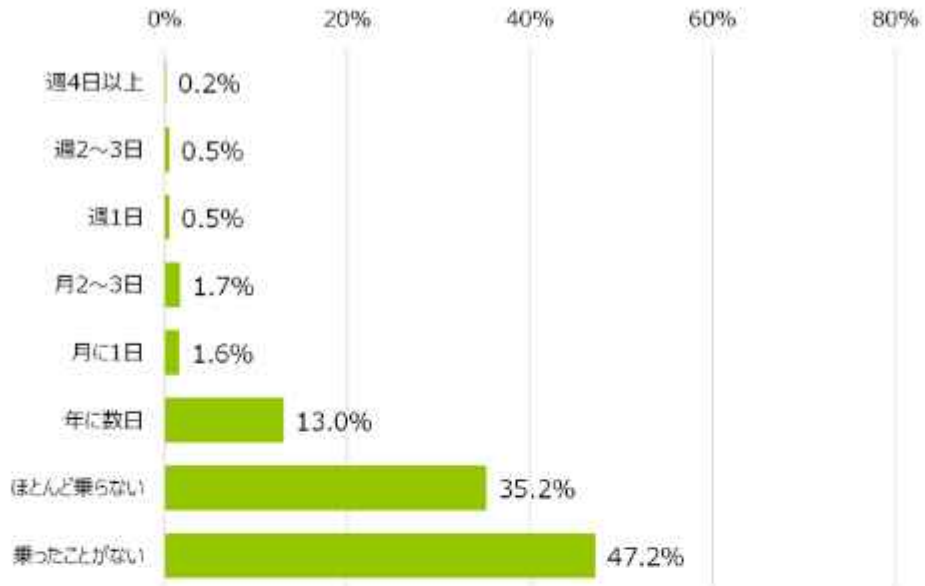


(7) 公共交通の利用頻度

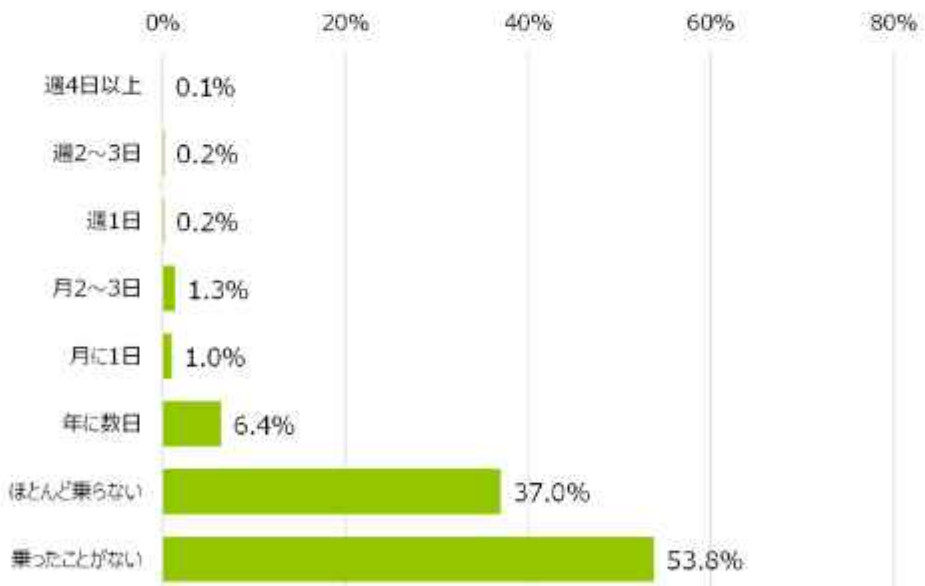
- 路線バスの利用頻度は、いずれも、ほとんど乗らない、乗ったことがないとの回答が計8割程度以上となっており、限られた人に利用されている状況です。高速バスについても、ほとんど乗らない、乗ったことがないとの回答が計8割程度となっていますが、年に数日利用する人が路線バスと同程度います。
- 町内のタクシーについては、ほとんど乗らない、乗ったことがないとの回答が計9割程度となっており、利用する人は、バスよりも限られているものと見受けられます。
- ただし、いずれのバス、タクシーも、利用者の中には週に複数日、利用する人がいます。



高速バス(九十九里ライナー、サンライズ発)



タクシー(片貝タクシー)



《外出手段についての意識等》

(1) 主にクルマを使う人の理由

- 主にクルマを利用する人の理由については、予定通り移動できる、いつでも乗れる、いくつかの場所を回るといった随意性の理由が多くなっています。その他では、荷物がある、早く行けるという理由が多くなっています。



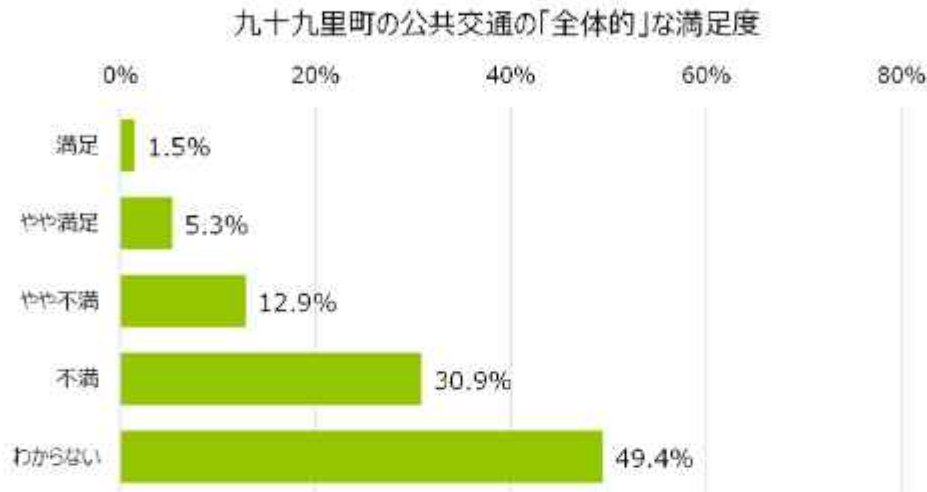
(2) 外出手段の困り事の有無

- 外出手段について、困り事がないという回答者が6割以上を占めています。困り事がある人の中では、東京方面へ出かける手段、町内の店・病院・診療所等へ出かける手段、東金市へ出かける手段が比較的多くなっています。



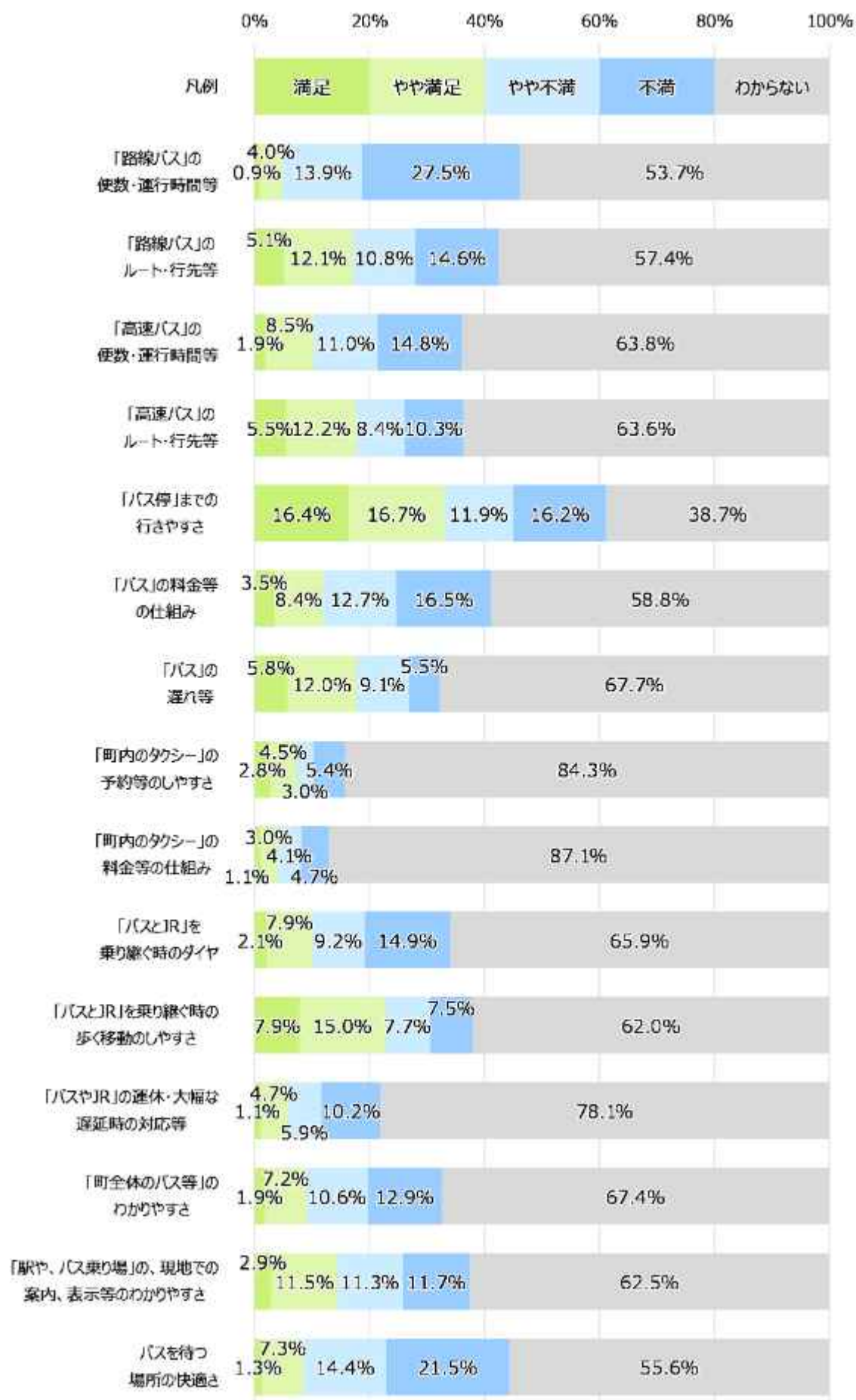
(3) 町の公共交通に対する全体的な満足状況

- 本町の公共交通に対する全体的な満足状況については、不満・やや不満との回答が、満足・やや満足との回答を上まわっています。
- ただし、(乗らないので、満足か不満か) わからないという回答が最も多くなっている状況です。



(4) 公共交通の各項目に関する満足状況

- 本町の公共交通の各項目に関する満足状況については、バスの便数・運行時間、バスの料金、バスとJRの乗り継ぎ、町全体のバス等のわかりやすさ、バスを待つ場所の快適さ等では、不満・やや不満との回答が比較的多くなっています。
- バスの行先、バスの遅れ、乗り継ぎで歩く経路等では、満足・やや満足との回答が比較的多くなっています。バス停までの行きやすさについては、満足、不満とも多くなっています。
- ただし、いずれの項目についても、(乗らないので、満足か不満か) わからないという回答が最も多くなっている状況であり、回答者の多くは、クルマ(運転、送迎・同乗)を利用できるため、公共交通を外出手段として意識していない状況であるものと見受けられます。



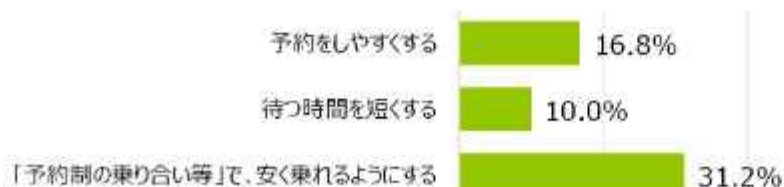
(5) もっと公共交通を利用するために望まれること

- もっと公共交通を利用するために望まれることについて、バスの運行等の面では、店舗・病院等に行きやすくする、電車・バスの乗り継ぎを便利にする、乗り継ぎの情報をわかりやすくするとの回答が多くなっています。
- タクシーの運行等の面では、予約制の乗合等で安くするとの回答が多くなっています。
- 全体のわかりやすさ・やさしさ等の面では、わかりやすい時刻表・マップ、わかりやすい案内・表示、乗り降りが楽な車両との回答が多くなっています。
- 全体の使いやすさ・快適さ等の面では、店舗・病院等を回れる乗り物、何回も気軽に乗れる運賃等の仕組み、待ち時間を快適にする・建物の中で待てるようにするとの回答が多くなっています。

■ バスの運行等について…



■ タクシーの運行等について



■全体のわかりやすさ・やさしさ等…



■全体の使いやすさ・快適さ等…



■その他、特にない等…



(6) 公共交通が改善された場合の利用意向

- 公共交通について様々な面の希望等がありますが、改善された場合の利用意向は、回数は少なく今よりは利用する程度、(利用頻度が増えるかどうか) わからないとの回答が多い状況です。



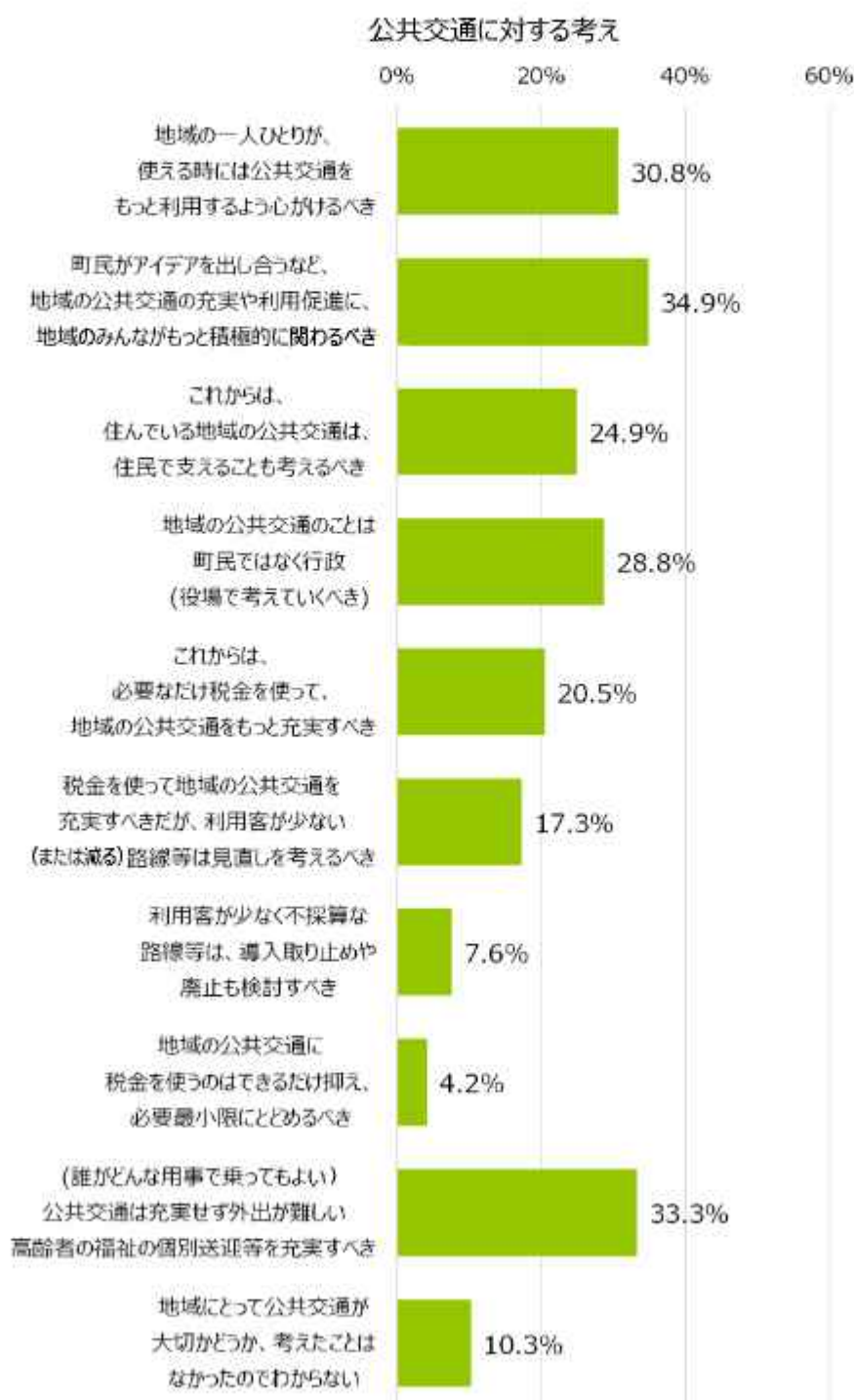
(7) 外出に関する将来の心配事

- 外出に関する現在の困り事はない回答者が多い状況ですが、将来については、自分や家族が運転できなくなること、送迎者がいなくなること、歩いて出かけるのが難しくなること、バス・タクシーが減便・廃止になること等を不安に感じる人が多くなっています。



(8) 今後の町の公共交通に対する考え方

- 今後の町の公共交通に対する考え方については、地域みんなが積極的に関わるべき、一人ひとりがもっと利用するよう心がけるべき、住民で支えることも考えるべきという回答が多いものの、一方では、町民ではなく行政で考えていくべき、利用客が少ない路線等は見直しを考えるべきという回答もあります。また、(公共交通は充実せず)福祉の個別送迎等を充実すべきとの回答も多くなっています。



2. バス利用客へのアンケート

2-1. 調査の実施概要

【調査対象】 九十九里町を運行する路線バスの乗降客

【調査日・場所】 令和5年（2023年）8月26日（土）：西の下バス停留所

10月12日（木）：西の下・小関納屋・北新田・小関丘バスの各停留所

【調査方法】 調査員が停留所でバス乗降客を待ち受け、調査票を配布、その場で回収

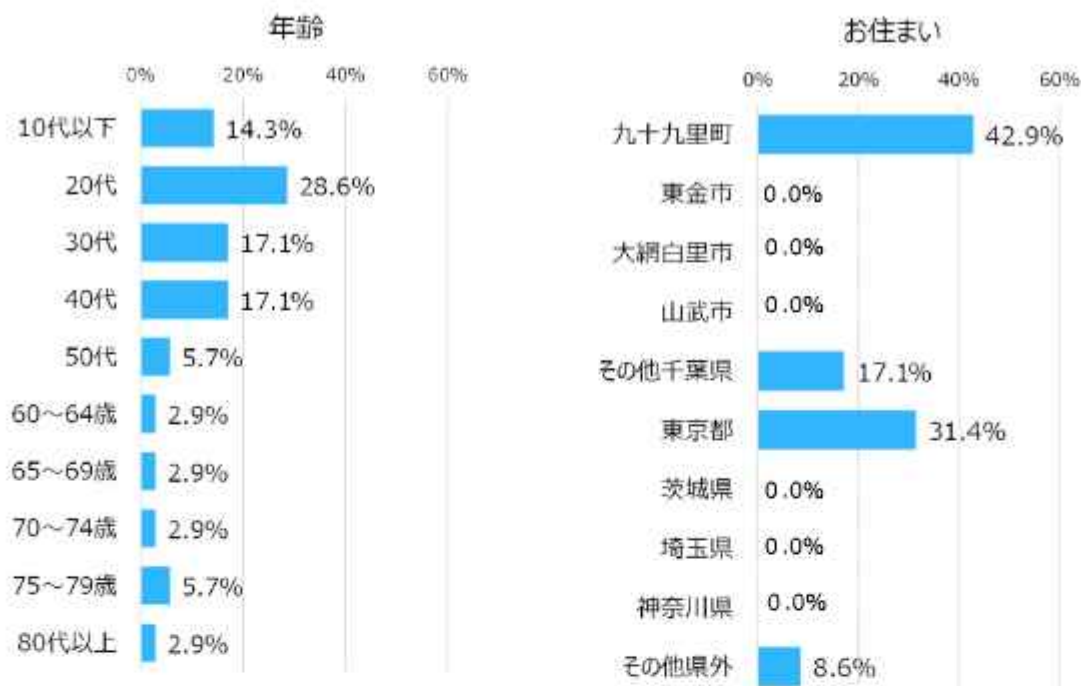
【回答者数】 35人（休日27人、平日8人）



《回答者について》

このアンケートは、休日調査が夏休みであったため、回答者の当日の外出目的は遊び・観光が半数を占めています。





(参考)
 ・このうち平日の回答者の年齢は、
 1人を除く全員が70歳代以上
 または20歳代以下です。

(参考)
 ・このうち平日の回答者の居住地
 は、6割が町内です。

2-2. 主な調査結果

(1) 運転免許の保有状況

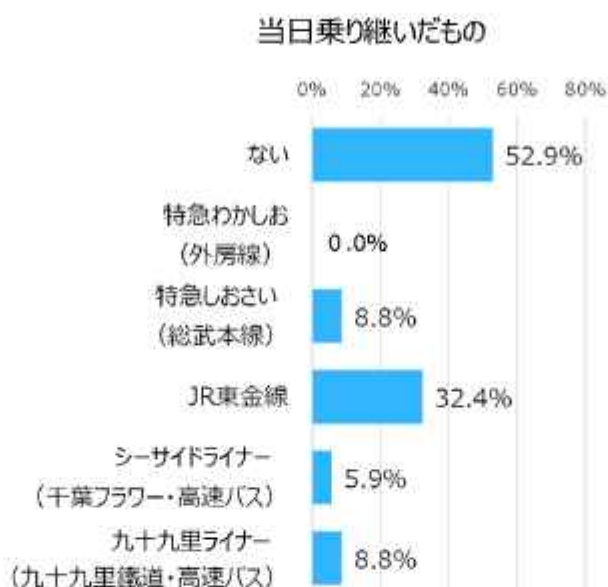
● 回答者（バス利用客）の運転免許の保有状況については、6割程度が免許を持たない人と運転しない人が占めています。本町のバスは、主にクルマを使わない人に利用されているものと見受けられます。



(参考)
 ・このうち平日の回答者は、1人
 を除く全員が、免許がないまた
 は運転しない人です。

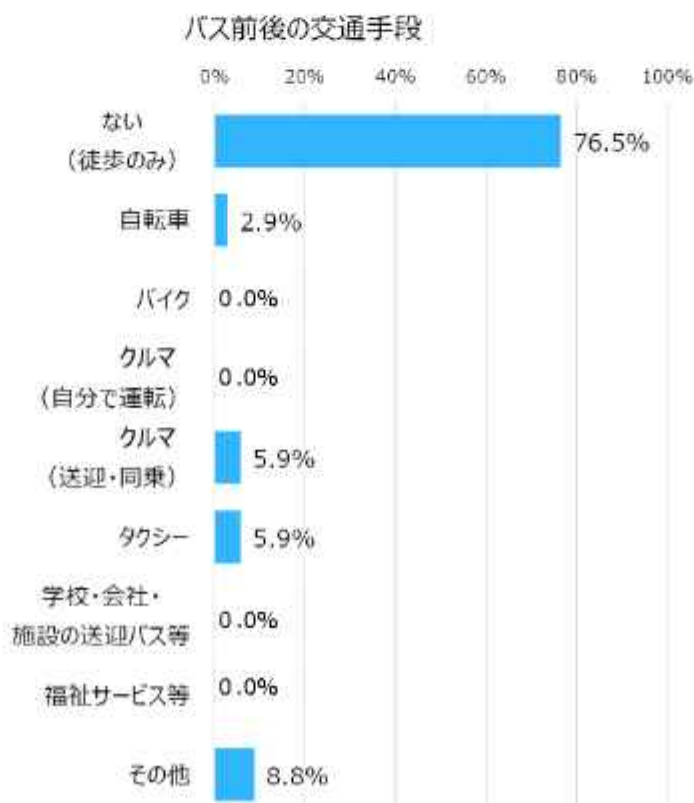
(2) 鉄道・高速バスとの乗り継ぎの有無

- バスの利用前後で、鉄道や高速バスとの乗り継ぎをしていない回答者が約半数を占めています。次いで鉄道（JR東金線）と乗り継いで利用した人が多くなっています。



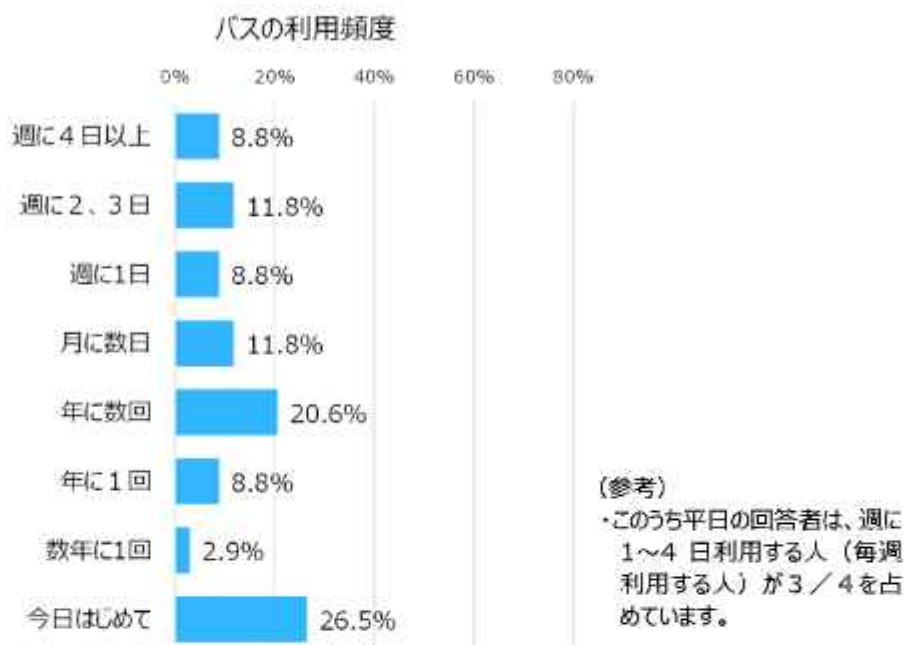
(3) 町内でのバス利用前後の交通手段

- 町内でのバス利用前後の交通手段は、ない（徒歩のみ）という回答者が大半を占めています。このことから、本町のバスが主にバス停から徒歩圏で利用されているものと見受けられます。



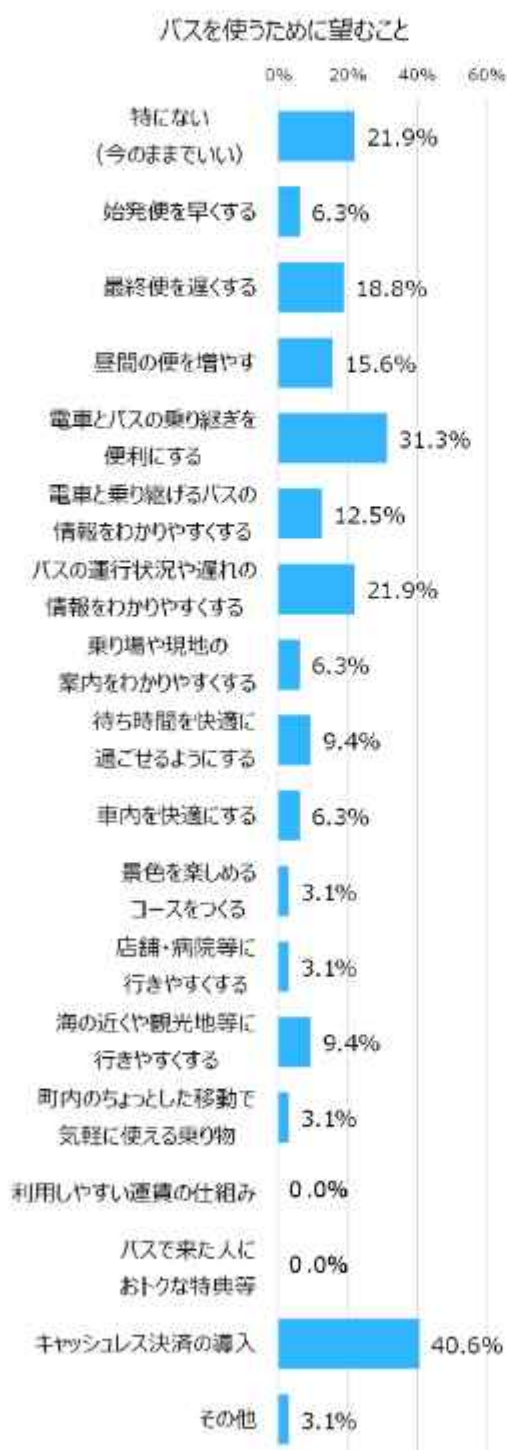
(4) ふだんの九十九里町のバスの利用頻度

- ふだんの本町のバスの利用頻度は、はじめてという回答が最も多く、次いで年に数回という回答が多くなっています。



(5) もっと九十九里町のバスを使うために望むこと

- 回答者がもっと本町のバスを利用するために望むことは、キャッシュレス決済の導入が最も多く、次いで、電車とバスの乗り継ぎを便利にすること、バスの運行状況や遅れの情報をわかりやすくすること、最終便を遅くすることの順で多くなっています。



(具体的に記述のあった主な内容 (少数))

- ・バスと鉄道の乗り継ぎ時間を合わせてほしい。
- ・検索サイトで最新の情報を調べられるようにしてほしい。
- ・ICカードを使えるようにしてほしい。
- ・海水浴に行くのに便利なため、運行を続けてほしい。
- ・町内を回るバス等がほしい。
- ・バスをなくさないでほしい。

3. タクシー利用客へのアンケート

3-1. 調査の実施概要

- 【調査対象】 九十九里町のタクシーの利用客
- 【調査日】 令和5年（2023年）11月
- 【調査方法】 片貝タクシー様の協力により利用客に車内で配布・回収
- 【回答者数】 108人（延べ人数）



3-2. 主な調査結果

(1) 利用客の年齢

- タクシー利用客（回答者）の年齢は、65歳以上の高齢者が中心であり、75歳以上が約半数を占めています。



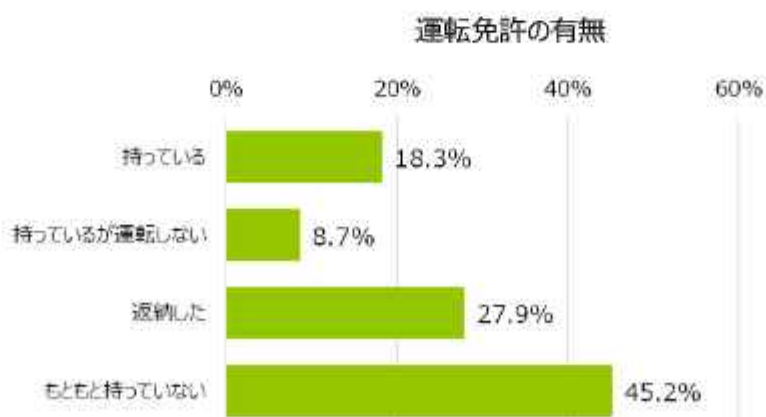
(2) 利用客の居住地

- 利用客の約8割が町内の居住者であり、本町のタクシーは主に町民に利用されています。また小学校区に偏りはなく、町域全体で利用されている状況です。



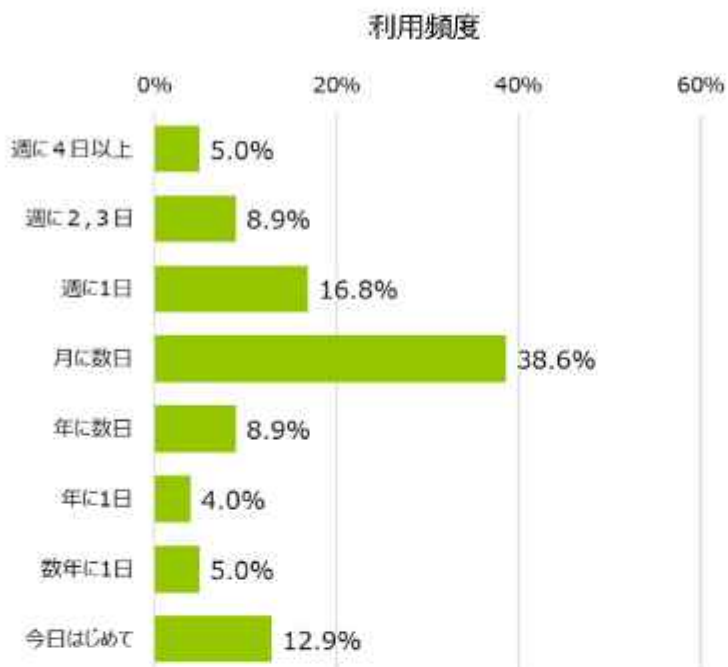
(3) 運転免許の保有状況

- 利用客のうち運転免許を持ちクルマを運転している人は2割弱であり、本町のタクシーは、主にクルマを運転しない人に利用されている状況です。



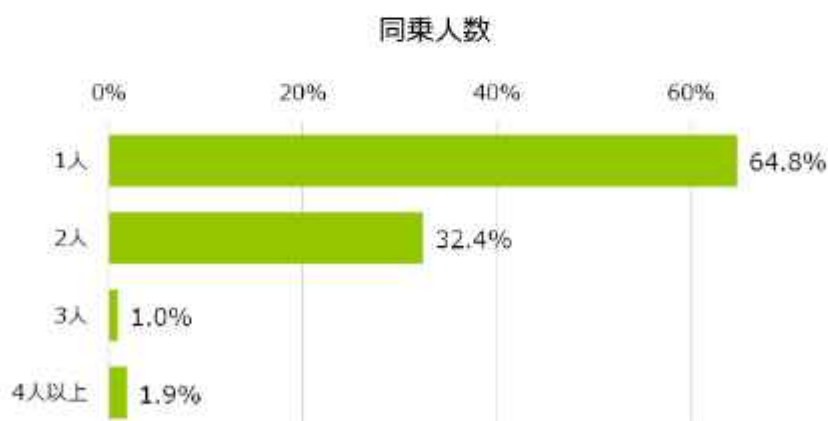
(4) タクシーの利用頻度

- 利用客のうち、町内のタクシーを月に数日使う人が最も多くなっていますが、週1日以上使う人が計3割程度います。



(5) 利用時の同乗人数

- タクシーを利用する際の同乗人数は、1人での利用が6割以上を占めています。次いで多いのは2人での利用であり、3人以上での利用はほとんどありません。



(6) 利用時の外出目的

- タクシーを利用する際の外出目的は、通院が最も多く、次いで買い物が多く、これらが大半を占めています。本町のタクシーは、主に町民の日常的な外出に利用されています。



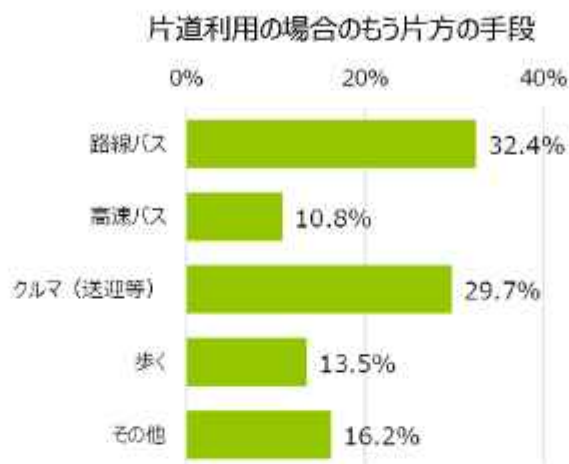
(7) 利用する区間

- タクシーを利用する区間は、自宅から出かけるときが最も多くなっています。自宅へ帰るときの利用は半数程度となっています。
- 出先から出先への移動手段としての利用は少ない状況です。



(8) 片道利用の場合のもう片方の手段

- 往復のうち片道のみタクシーを利用する人のもう片方の手段は、路線バス、クルマによる送迎等が多くなっています。



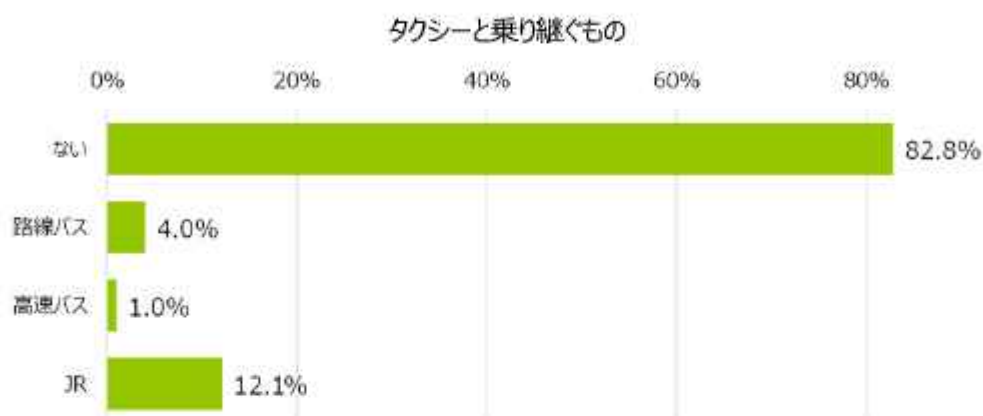
(9) タクシーを乗り降りする場所

- タクシーを乗り降りする場所は、自宅以外では、町内の店舗、病院・診療所のほか、東金市の病院、東金駅が多くなっています。



(10) タクシーと乗り継ぐもの

- タクシーと他の交通手段との乗り継ぎについては、JRとの乗り継ぎが1割程度あるものの、大半がタクシー単独の利用となっています。



4. 観光客へのアンケート

4-1. 調査の実施概要

【調査対象】 海の駅九十九里の来訪客

【調査日】 令和5年（2023年）8月26日（土）

【調査方法】 調査員が海の駅九十九里で来訪客を待ち受け、調査票を配布、その場で回収

【回答者数】 151人



《このアンケートの回答者》



4-2. 主な調査結果

(1) 九十九里町への来訪頻度

- 回答者（観光客）の本町への来訪頻度については、はじめて、数年に1回という人が多いものの、年に数回訪れている人もいます。



(2) 同行者の人数

- 同行者の人数については複数名が大半であり、2人連れが最も多くなっています。



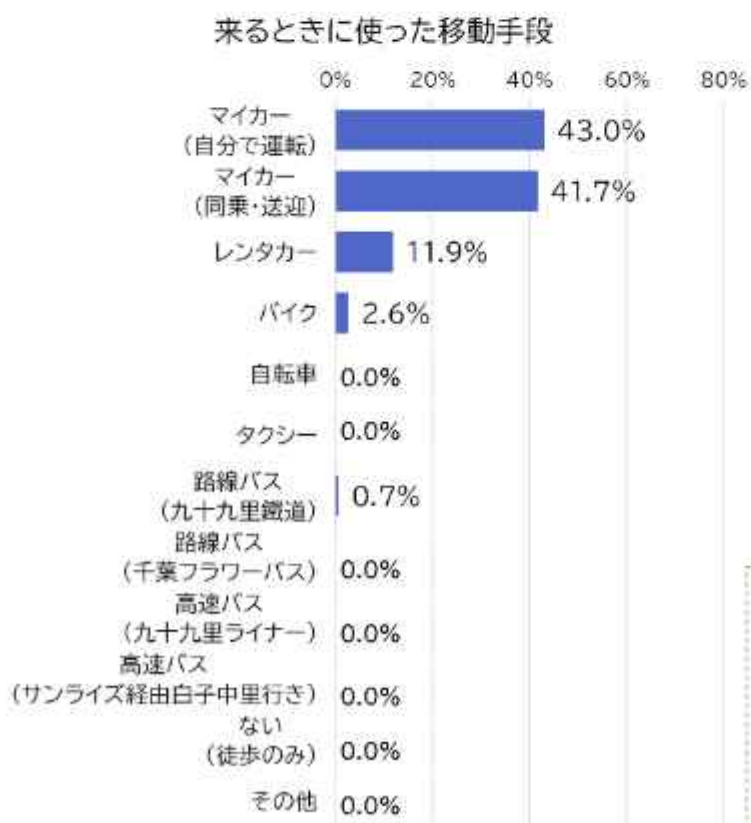
(3) 日帰り・宿泊

- 日帰り客が計6割程度を占めており、半日以下の滞在が特に多くなっています。回答者の滞在時間は、全体として短い傾向があります。



(4) 来訪時の交通手段

- 来訪時の交通手段は、マイカーが計8割以上を占めており、レンタカーを含めると、クルマで来訪する人がほとんどです。バスで来訪する人はきわめて少ないのが現状です。



(参考)

回答者のうち、バスで来訪した人は1名のみで、JR 東金線と乗り継いで利用しています。バスを利用した主な理由は、疲れないこと(誰かが運転しなくてよいこと)です。

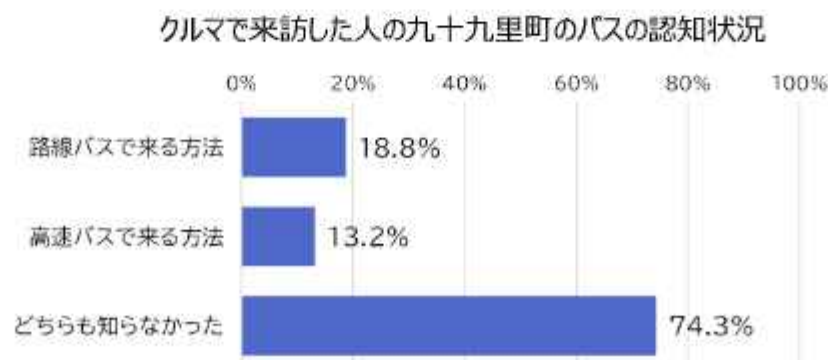
(5) クルマで来訪した人の理由

- クルマで来訪した人については、運転・ドライブが好きとの理由が最も多く、次いで、好きな所に行ける、好きな時に乗れるとの理由の順で多くなっています。



(6) クルマで来訪した人のバスの認知状況

- クルマで来訪した人については、本町へバスで来る方法を知らなかった人が7割を占めているのが現状です。来訪者の多くが、本町はクルマで来訪する場所であるとのイメージを持っており、バスを選択肢として意識していない可能性があります。



(7) もっと九十九里町のバス等を使うために望むこと

- 来訪客が、もっと本町のバス等を使うために望むことについては、ない（バスの利用は考えない、今のままでいい）との回答が多数を占めています。
- 希望する回答があった中では、電車とバスの乗り継ぎを便利にすることが最も多く、次いで景色を楽しめるコースをつくること、電車と乗り継げるバスの情報をわかりやすくすること、バスで来た人におトクな特典等、もっと海の近くに行きやすくすることの順で多くなっています。

もっと九十九里町のバス等を使うために望むこと



(参考：具体的に記述のあった主な内容 (少数))

- ・観光タクシーがあるとよい。
- ・バスの本数を増やしてほしい。
- ・電車との乗り継ぎを便利にしてほしい。
- ・バスを予約できると安心。
- ・SNSの観光情報、観光に便利なスマホアプリ。
- ・自由に動き回りたいためマイカーが楽。
- ・お酒を飲みたいので本当はマイカーで来たくなかった。
- ・地元が近いが、高速バスが通っていることを初めて知った。
- ・バスがどこを走っているかわからない。現地に着いた後にバスが使えるかどうか前もってわからない。



1. 九十九里町の現状・問題等の要点

地域・公共交通に関する基礎情報、町民・利用客や運行事業者、関係者等からの情報・意見等により、本町の地域及び公共交通の現状・問題等の要点は以下のように整理されます。

地域の概況

(人口等の状況)

- 本町では、**人口減少、少子・高齢化**が進んでいます。
- 人口は、海岸沿いや町の中心に集まっていますが、**町域全体**に拡がっており、**一人暮らしの高齢者等も、広く分布**しています。路線バスのような定路線運行の手段で全てをカバーするのは難しい状況です。
- 人口減少、少子・高齢化は**今後も進む見通し**であり、外出手段の確保は、ますます重要になると考えられます。(人口減少が進むなか、確保していくこととなります。)

(施設の立地状況)

- 本町のスーパー、病院等の主な施設は、おおむね町の中心付近に立地しています。**町の周辺部**からこれらの施設を利用するには、歩いて行くには遠く、**何らかの交通機関が必要**となります。
- また、町内の施設数は限られており、**必要に応じて隣接市等の施設へ出かける町民も多い**状況です。
- 一部、バス停が近くにないスーパー、病院もあります。

(町民の状況)

- 通勤・通学では、町内のほか、東金市等へ出かける人が多くなっており、**クルマ(自家用車等)を利用する人が突出して多い**のが現状です。
- この地域の店舗等へは、**ほとんどの人がクルマ**で来店しています。
- 町民の**定住意向は高い**状況です。移転したい人の中では、**交通や買い物が不便**なことが理由の上位となっています。
- 町民の**自動車や運転免許の保有率は高い**状況です。
- クルマ中心の外出スタイル**となることで、**地球環境面、健康面、まちなかの賑わい**等の面での悪影響が危惧されます。

(観光等の状況)

- 夏季等には多くの人が**九十九里浜**を訪れています。近年、**観光客向けの店舗等**が増えています。
- 本町への**観光客も、多くの人がクルマ**で来訪しています。(宿泊客が減少)

公共交通の現状

(公共交通のネットワーク)

- 本町には駅がなく、複数の路線バスが町内を運行し、隣接市の駅との間をつないでいます。
- 高速バスが、東京、千葉方面との間をつないでいます。
- タクシーが、これらを補完する役割を担っています。

(路線バス・高速バスの状況)

- 路線バスは、居住地で見ると本町の人口の8割近くをカバーしています。ただし、路線バス等で全域をカバーするには限界があり、公共交通不便地区が残っています。
- バスの利用客数は、決して多くなく、以前から減少傾向にあり、コロナ禍の影響でさらに落ち込みました。
- 路線バスは、主に高齢者の町民の利用が大半であり、一部に学生の通学利用もあります。高速バスは主に町外からの来訪者に利用されているように見受けられます。
- 大半の路線は、町外の乗降客が多くを占め、本町内のバス停の乗降客は少ない状況です。
- 海の駅九十九里まで高速バスを延伸する実証運行も行われていますが乗降客は少ない状況です。

(タクシーの状況)

- 町内にタクシー営業所が1社あり、車両台数は4台です。タクシーの利用客も、コロナ禍の影響で落ち込みました。
- タクシーは、町内の高齢者など、ほぼ決まった人が利用している状況と見受けられます。また、1人での乗車が多い状況です。
- 公共交通が存在しない地域の解消に向け、「タクシー利用助成」の実証実験に取り組んでいます。

(運行事業者の状況)

- 利用客の減少に加え、乗務員の不足、高齢化が全国的に深刻な問題となっており、さらに2024年の労働基準の改定もあり、バス、タクシーの事業者は、きわめて厳しい運営状況となっています。

本町のまちづくりにおける考え方（上位・関連計画等）

- まちづくりの最上位計画である「九十九里町総合計画」では、「公共交通の利用促進」（支援の強化、利用環境の向上、町民への周知、意識の醸成）、「交通手段の充実」（高齢者等の交通サービス等の支援）を主な取り組みとして掲げています。
- その他関連計画として、過疎地域持続的発展計画で、総合計画を踏襲した考え方が示されています。その他、地球温暖化対策、健康増進、高齢者福祉、子育て支援、観光等の分野においても総合計画にもとづく考え方による取り組みが行われており、公共交通が寄与できることがあると考えられます。

乗り場等の現地の状況

- 多くの町民や観光客が利用する店舗、病院、観光スポット等で、付近にバス停のない施設や、バス停と建物が離れている施設があります。
- 乗り場が近くにあっても、高齢者等が買い物等の荷物を持って歩くにはやや負担が大きい場合があります。
- 町内の主なバス乗り場は、猛暑、酷寒、荒天等の場合に長時間待つ場所としては十分ではない場所が多いように見受けられます。
- バス等の情報提供は各社個別に取り組まれています。一部の経路が異なるなど複数の系統・路線があり、また複雑で、公共交通や当地域に不慣れな人、高齢者にとってはわかりにくい状況です。
- 高速バスを降りた後の回遊手段や、電車と乗り継ぐバスがわからず観光客が悩む状況も見かけられます。

町民や利用客の現状・意識等

- ほとんどの町民は、高齢者も含め、日々の暮らし（買い物、通院、趣味・遊び等）で、クルマ中心（運転、送迎・同乗）の外出スタイルとなっています。通院については、タクシーで出かける町民（高齢者等）も一部にいます。
- ふだん、バス、タクシーにほとんど乗らない町民が大半であり、乗ったことがないという人も少なくありません。
- 町民の満足度は高くない状況ですが、外出手段としてバス等を意識しておらず、便利か不便か、乗らないのでよくわからないという町民が多いのが現状です。
- 高齢者を含め、外出で困り事等のある町民は比較的少ない状況です。ただし、町外の駅等への外出について改善を望む声が比較的多くなっています。
- 乗り場まで歩くことや、車両の乗り降りが負担で、乗合の公共交通の利用が難しい高齢者等がおられますが、大半の方は、タクシーや家族・親族のクルマで外出ができています。（その他、歩いて出かけることや一人で外出すること自体が難しく、公共交通以外の福祉の個別送迎等が必要な方もいます）
- 少数ながらバスで通学している高校生がいますが、テスト期間等で下校時に便が合わず長時間待つこともあります。部活等のため家族のクルマの送迎で通学している高校生もいます。友人との遊びでバスに乗ることもあります。
- 公共交通は運転できない「弱者」（学生や高齢者）が利用するものであるという意識が町に浸透してしまっているように見受けられ、高校生等も、将来はバス等を使わない暮らしをイメージしている状況です。
- バスの運行ルートがよくわからない人が多く、特に高速バスのことを知らない人が少なくありません。
- 町民、来訪者、利用客等から、町外との行き来に使う際のバスの便を増やしてほしい、バスと鉄道との乗り継ぎをよくしてほしい、バスの運行状況をわかりやすくしてほしい、高齢者等の乗り降りをしやすくしてほしい、ICカードを使えるようにしてほしい、検索サイト等のダイヤ情報を更新してほしい、タクシーチケットを続けてほしいといった声が得られています。ただし、バス等が改善されても利用するかどうかかわからないという人が多くを占めています。
- 現状で困り事のある人は少数ですが、クルマが利用できなくなること、公共交通を使えなくなること等の将来の不安を抱える町民は多い状況です。

2. 今後に向けた課題・着眼点

地域・公共交通の現状や町民等の外出の実態・意識等をふまえ、本町の公共交通の今後に向けた課題・着眼点として以下が挙げられます。

●課題： 少子・高齢化が進むことも見据え、町内の外出手段を確保することが必要です。

本町では、居住地が町域に拡がり、施設の立地する場所が限られているため、外出するには徒歩以外の手段が必要ですが、少子・高齢化が進み、クルマを運転しない高齢者や一人暮らしの高齢者等が増える可能性があります。高齢者や障がいのある人、子育て世代がいつまでも地域で暮らせるよう、日々の外出手段を確保することが必要となります。

●課題： 運営が厳しく人口の減少も見込まれる中、将来にわたり、地域の公共交通を持続していくことが必要となります。

本町のバス、タクシー等の利用客は少なく、さらに、人口減少、乗務員の不足・高齢化によって、きわめて厳しい運営状況となっています。したがって、将来に向け、地域の実情に見合った形で、公共交通を確保し持続できるようにしていく必要があります。

●課題： 日々の外出の利便性を確保する方策を模索することが必要です。

公共交通を利用する町民等は少数であり、外出に関する困り事のない人が大半ですが、実際に公共交通を利用している人からは、鉄道との乗り継ぎや運行方法等について改善を望む声があります。利用客が少なく経費が収入を大きく上まわっている中で、運行方法やソフト面の調整・工夫等によって、町民の暮らしや学生の通学等の外出の利便性を確保する方策を模索することが必要です。

●課題： 福祉分野の取り組みとの連携も必要です。

現在は、クルマ（運転、送迎・同乗）で外出する町民が大半ですが、今後、少子・高齢化が進み、近くの乗り場まで歩くことや一人で出かけるのが難しい高齢者、家族のいない高齢者等が増える可能性があります。乗合の公共交通では支援しきれない人に対し、福祉分野の関係者による個別送迎等のサービスとの連携・役割分担も今後必要となります。

●課題： 全体として、「わかりやすさ」を充実することが必要です。

高齢者も含め公共交通をほとんど使わない人が多い状況であり、今後は初めて利用する人や不慣れな人の利用が増える可能性があります。また、本町には複数の事業者によるバス路線・系統があり、わかりにくいとの声があり、実際にバス等を利用する人も、決まった路線の決まった便を使っているように見受けられます。この状況に対し、公共交通全体のわかりやすさを充実する必要があります。

●課題： 主な乗り場の「待合環境」や「案内」を充実することが必要です。

他市町との行き来に利用するバス停や九十九里浜近傍のバス停が、本町の中で利用客が比較的多い乗り場となっています。その他、大型店や病院の最寄りのバス停も、今後の利用が増える可能性があります。待ち時間が長くても快適に過ごせ、また不慣れな人や来訪者等も安心して利用できるよう、待合環境や案内を充実することが必要です。

●課題： 少しずつでも、クルマしか使わない外出スタイルの見直しや、公共交通への意識の醸成に取り組むことが必要です。

現状では、バス等の公共交通を利用しない町民が大半であり、クルマを使えるかぎり公共交通が外出手段として意識されていないように見受けられます。この状況では、将来まで公共交通を確保・持続しても利用されないことが危惧されるため、少しずつでも、クルマしか使わない外出スタイルを見直し、使える時に使える方法で公共交通を利用する意識を醸成していくことが必要です。

●課題： 観光・まちの賑わいなど、多様な分野に貢献する方策を模索していくことが必要です。

現状では、町民だけでなく観光等の来訪者もクルマを利用する人が大半です。クルマによるドアツードアの移動と比べ、公共交通の利用と歩くことによる移動は、まちの賑わいなど、多様な面でよい影響があると考えられるため、関連する分野と考え方を共有し連携しながら公共交通の取り組みを行っていく必要があります。



九十九里町の公共交通がめざすべき姿・方向性



本町の現状、課題と将来に向けたまちづくりを踏まえ、以下を九十九里町の公共交通がめざすべき姿（基本理念）及び今後の取り組みの方向性（基本方針）とします。

■ 九十九里町の公共交通がめざすべき姿（基本理念）

みんなで考え、みんなで使って未来につづく
公共交通が、日々のくらしやまちづくりを支え、
にぎわいのある九十九里の実現
をめざします。



九十九里町の公共交通は、みんなで考え日々の暮らしに使いやすい外出手段にしていくとともに、高齢者や学生等のクルマを運転しない人だけでなく、町民や来訪者のみんなが、使える時には使うよう心がけることによって未来まで持続し、いきいきとした暮らしや、賑わいのあるまちづくりに貢献していくことをめざします。

■ 今後の取り組みの方向性（基本方針）

方向性 1

町の公共交通を将来にわたり持続します。
（バス・タクシー）

- 九十九里町のバス、タクシー等の公共交通を将来にわたって持続し、日々の暮らしやまちづくりを支えていくことをめざします。
- そのため、利用状況等に応じて定期的な見直しを行いながらバス、タクシー等を持続的に運行するとともに、日常的な利用客の確保、効率的・安定的な運用のための方策に取り組みます。

方向性 2

地域の実情に応じた外出手段を確保し、
日々のお出かけを便利にする調整・工夫をします。

- 高齢者等をはじめ、町内の各地域で暮らす町民が日々のお出かけで便利に使える公共交通サービスをめざします。
- そのため、地域に見合った形で外出手段を確保するとともに、可能な調整・工夫による方策を検討し、町内外への外出手段の利便性向上に取り組みます。

方向性 3

使ってみたくなる利用環境をつくります。
(わかりやすさ・やさしさ)

- 公共交通をほとんど使ってこなかった人や、不慣れな高齢者、町外からの来訪客等にもわかりやすく、人にやさしい公共交通をめざします。
- そのため、町の公共交通全体のわかりやすさ、乗り場での案内の充実、待合環境や人にも地球にもやさしい利用環境の充実に取り組みます。

方向性 4

クルマだけでなく、使える時には少しずつでも公共交通
を考えるように、意識の変容を促していきます。

- 少しずつでも、町民等が、クルマしか使わない行動スタイルを見直すよう促すとともに、地域の公共交通のことを、地域で考え、使える時に使って守る意識を育むことをめざします。
- そのため、町民の一人ひとりや地域が公共交通のことを「考える機会」を提供する取り組みを行います。

方向性 5

まちの賑わいに貢献する方策を模索します。

- 本町には「九十九里浜」という魅力的な観光資源があります。多くの人が本町に来訪し周遊・回遊することで、公共交通が、まちのにぎわいに貢献する可能性を模索します。
- そのため、観光・集客等と公共交通が連携した企画や、来訪者の利便性の向上につながる方策の検討に取り組みます。



今後に向けた取り組み



1. 取り組み（事業）の体系

本町の公共交通は、「めざすべき姿」の実現に向けた「5つの方向性」にしたがい取り組んでいきます。今後の取り組み（事業）の体系は以下の通りであり、計画期間において検討・実施を順次進めていきます。

方向性 1

町の公共交通を将来にわたり持続します。
(バス・タクシー)



取り組み
1-1

路線バス・高速バスの利用促進と持続的な運行



取り組み
1-2

日常的な利用客（固定客）の確保



取り組み
1-3

効率的・安定的な運用のための方策の検討・実施

方向性 2

地域の実情に応じた外出手段を確保し、
日々のお出かけを便利にする調整・工夫をします。



取り組み
2-1

町民の外出手段の効率的な確保



取り組み
2-2

町民の外出の利便性向上のための運用・運用方法の工夫



取り組み
2-3

学生等の利便性向上のための方策



取り組み
2-4

福祉と連携した外出等の支援

方向性 3

使ってみたくなる利用環境をつくれます。
(わかりやすさ・やさしさ)



取り組み
3-1

町の公共交通全体のわかりやすさの充実



取り組み
3-2

乗り場での案内（現地でのわかりやすさ）の充実



取り組み
3-3

主要な乗り場での待合環境の充実



取り組み
3-4

人にも地球にもやさしい利用環境の充実

方向性 4

クルマだけでなく、使える時には少しずつでも公共交通
を考えるように、意識の変容を促していきます。



取り組み
4-1

町民へのPR活動



取り組み
4-2

免許返納を考える人へのサポート



取り組み
4-3

町民が乗る機会・考える機会の提供（モビリティ・マネジメントの取り組み）



取り組み
4-4

地域主体で考える機会のサポート

方向性 5

まちの賑わいに貢献する方策を模索します。



取り組み
5-1

観光等に便利な運行方法の工夫・試行



取り組み
5-2

観光と公共交通が連携した企画等



取り組み
5-3

その他、来訪者の利便性の充実

2. 各取り組み（事業）の内容

本計画の5つの方向性に基づいた取り組み（事業）の内容を以下に示します。

各取り組みは、計画期間（5年間）に、具体的な実施方法について関係者、運行事業者、町民等との意見交換や調整を行いながら検討し、必要に応じて実証運行・試行等をふまえた上で本格的な導入等を行います。

方向性1

町の公共交通を将来にわたり持続します。
（バス・タクシー）



取り組み
1-1

路線バス・高速バスの利用促進と持続的な運行

利用客が少なく、今後の人口減少も見込まれる中、本町の公共交通は、将来にわたり、町民の日々の暮らしやまちづくりを支えていきます。そのため、種々の利用促進を図りながら町内外への外出を担う路線バス・高速バスを持続的に運行します。

取り組みの内容

- 本町を運行する民間事業者の路線バス、高速バスについて、地域の実情に応じた運行方法の部分的な調整や見直しを定期的に行うとともに、小湊鐵道、九十九里鐵道のついでには国・県の補助「地域公共交通確保維持事業」を活用し、ちばフラワーバスについては本町が山武市と連携した補助（現在の九十九里町路線バス海岸線運行事業、またはそれに代わる補助など）を行いながら、持続的に運行し、町内の各地区と隣接市町、駅などつなぐ外出手段としての役割を担っていきます。

また、これまでも公共交通に関する隣接市との調整等を行ってきており、今後も、路線バスの持続的な運行や他のサービスも含めた意見交換を定期的に行い連携して取り組んでいきます。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
●	●	○ (国、県、隣接市)	

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)



取り組み
1-2

日常的な利用客（固定客）の確保

利用客が少なく厳しい運営状況にある中、本町のバス等の運行を今後も持続できるようにするため、運行事業者、関係者が連携し、日常的な利用客（固定客）を確保するための取り組みを行います。

取り組みの内容

- 路線バス、高速バスの定期券、回数券の販売を促進し、日常的な利用客を確保するため、バス事業者が作成するチラシ・ポスター等を、町とバス事業者が連携し、町関連施設、バス停のある店舗等に掲示するよう依頼します。
- 町とバス事業者が連携し、町内の中学校、高校等の行事（進路説明会、オープンキャンパスなど）に出向いて、生徒や保護者に対しバスの通学利用をPRします。
- 町内に住む学生の通学利用を促すため、バスの定期券、回数券の購入への町による助成などの制度の可能性について検討します。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (施設・商業、学校の 関連部門と連携)	●	○ (町関連施設、店舗等関係者、 学校関係者)	

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)



取り組み
1-3

効率的・安定的な運用のための方策の検討・実施

将来にわたって本町の公共交通を効率的・安定的に運用できるようにするため、町と運行事業者が連携しながら、乗務員の確保などの運営上の喫緊の問題に対処する方策や、運行事業者の負担を軽減する方策を検討し取り組んでいきます。

取り組みの内容

- 乗務員不足・高齢化をはじめとする運営上の問題を共有するため、町が呼びかけを行い、複数のバス・タクシーの運行事業者による意見交換の場を定期的に設けます。
- 乗務員の確保については、各事業者が継続的に取り組みを行うとともに、町の広報、ホームページ等の媒体、U・I・Jターンのキャンペーンなどを活用した求人活動など、町が可能

な支援の仕組みを検討します。

- 運行の効率化（バス乗務員の負担軽減）を目的として、各運行事業者が、ダイヤなど運行方法を定期的に見直します。

また、バス乗務員の運転時間を効率化（連続運転を短縮）できるような場所での「共同の休憩場所」の確保について、町が可能性を検討します。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (UIターン、施設等の 関連部門と連携)	●	○ (施設関係者)	

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)

方向性 2

地域の実情に応じた外出手段を確保し、
日々のお出かけを便利にする調整・工夫をします。



取り組み 2-1

町民の外出手段の効率的な確保

公共交通を使う町民の町内や隣接市の店舗、病院などへの外出の手段を効率的に確保するため、タクシーなどの運行・運用方法や、新たな外出サービスや仕組みなどを検討し取り組んでいきます。

取り組みの内容

- 現在、本町で行っている公共交通の実証実験（「九十九里町公共交通実証実験助成事業」によるタクシー利用助成）を継続し、有効性を検証した上で、事業の継続や、他の地区への適用の可能性について検討します。
- タクシーを活用して町民の外出手段を効率的に確保するため、町が行う「タクシー利用助成」などにおいて、「相乗り（複数名での乗車）」の利用を促すような仕組み（割引など）を検討します。
- バスが運行していない町内の地区を対象として、行先、運行ルート、時間帯を定めた「デマンド型の乗合タクシー」（個別送迎ではない乗合タクシー）などについて検討し、状況に応じて実証運行を行います。
- 地区の住民が中心となって運営する、地域の実情に応じたお出かけサービス（タクシーの相乗り、住民ボランティアによる送迎など）について、タクシー事業者等との意見交換も行いながら、検討を行います。主体的に取り組もうとする地区が、サービスの試行や実証運行などを行う際に、町がサポートする仕組みを検討します。（*地区住民が中心となって「考える」取り組みへのサポートについては後述）

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
●	○ (意見交換) (実証運行等の協力)		●

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)



町民が、町内外へ、公共交通を使って便利に出かけられるようにするため、町内の公共交通の運行方法の工夫を行うとともに、店舗などの施設と連携した取り組みを行います。また、バス、タクシー、鉄道を乗り継いで、町外との間を便利に行き来できるようにするため、複数の公共交通が連携した運行・運用方法を検討し取り組んでいきます。

取り組みの内容

- 本町のバスと鉄道との乗り継いだ外出の利便性を充実するため、ダイヤ改正などの情報を随時提供していただくよう、町から鉄道事業者へ打診し、その情報をもとにバス事業者が、可能な限り乗り継ぎが便利になるよう定期的にダイヤを調整します。
- タクシーとバスを利用した外出を便利にするため、例えば、町内でのタクシーとバスの乗り継ぎ利用、行きはバスで帰りはタクシーといった利用を促す仕組み（割引・特典など）について、町が呼びかけを行いバス、タクシー事業者と意見交換しながら、可能性を検討します。
- 公共交通を使った外出を促すため、町が店舗関係者や運行事業者への打診を行い意見交換しながら、例えば、バス、タクシーを使って買い物をした人への割引・特典などの仕組みの可能性について検討し、有望なアイデアがある場合には試行などを行います。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (商業関連部門と連携)	●	○ (店舗・関連団体)	

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)



町内の高校生の通学や、休日・夏休みなどの外出の利便性を向上し、活発な外出を促すため、公共交通の運行方法やその他の方策について、学校関係者とともに検討・調整を行います。

取り組みの内容

- バス通学をする生徒がいる九十九里高校などで、テスト期間の短縮時間割などの際の下校や休日・夏休みの部活動などでバスの便が合わない場合に、例えば、バスの特別ダイヤの

調整や、相乗りや貸切りのタクシーなどにより、ちょうどよい時間帯を補完する方策の可能性について、町と学校関係者、運行事業者が調整しながら検討します。

- 高校生などのニーズを定期的に把握しながら、週末・夏休みなどに町外から本町へ遊びに来る際にちょうどよい時間帯の外出手段（例えば、行きはバス、帰りは相乗りのタクシーなど）の可能性について検討します。
- 高校生からの要望が多い、バスの「キャッシュレス化」（ICカード、モバイル回数券など）について、バス事業者が継続的に検討するとともに、町も支援の方策を検討します。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (学校関連部門と連携)	● (試行等への協力)	○ (学校)	

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)



取り組み
2-4

福祉と連携した外出等の支援

高齢化が進むことで、乗合の公共交通の利用や、外出自体が難しい町民が増える可能性があります。本町全体としては、公共交通と福祉などの関係者が連携や役割分担を行いながら、なるべく公共交通を利用して出かけていただけるようにする方策とあわせて、乗合の公共交通以外の送迎などで出かけていただく方策に取り組み、元気なお出かけを応援していきます。

取り組みの内容

- 一人で外出することや乗合の公共交通の利用が難しい高齢者や障がいのある方などに対し、町の福祉部門の取り組みによる支援の方策（例えば、ワゴン車などでの買い物ツアー、福祉のボランティアによる個別送迎のほか、買い物代行サービスなど）について、タクシー事業者等との意見交換も行いながら検討します。
- 障がいのある方への支援として、町の福祉部門による「福祉タクシー助成事業」（タクシー利用に対する助成）を継続します。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (福祉関連部門)	○ (意見交換) (仕組みへの協力)	● (福祉関連団体等)	

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)

方向性 3

使ってみたくなる利用環境をつくります。
(わかりやすさ・やさしさ)



取り組み 3-1

町の公共交通全体のわかりやすさの充実

本町の公共交通について、バスの運行状況をよく知らない人が少なくないことや、利用方法をわかりやすくすることを望む声があることから、出発前に得られる町の公共交通全体の情報を充実し、利用に対する抵抗感の軽減に取り組みます。

取り組みの内容

- 本町を運行する複数の路線バス、高速バス、JR 東金線、外房線、総武本線、タクシーの情報を一つにまとめ、どこに行けば、どこ行きのバスに乗れるかを高齢者などにもわかりやすく簡潔に示す町全体の「バスマップ(チラシなど)」を、町が各バス事業者の情報を得ながら作成します。
- バスを利用する習慣がなく路線図や時刻表を調べることに抵抗感のある高齢者などに対し、町が福祉関係者と連携し、各地区に出向いてバスなどの使い方に関する「出張説明会」などを行います。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (福祉関連部門と連携)	● (情報の提供など)	○ (自治会、福祉関連団体等)	

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)



取り組み 3-2

乗り場での案内(現地でのわかりやすさ)の充実

本町への来訪者や、公共交通の利用に不慣れな町民などが、外出先の現地で迷うことなく利用できるようにするため、種々の工夫を行い乗り場での案内を充実します。

取り組みの内容

- 町が運行事業者と連携し、主なバス停や、観光スポットの施設内の掲示などの方法で、何

に乗ればどこに行けるかといった簡易で総合的な案内を行います。また、町の観光案内所や観光施設と連携し、スタッフによるバス、タクシー等の案内のフォローができるようにします。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (観光関連部門と連携)	○ (情報の提供、相互の案内)	○ (観光関連団体、 施設関係者等)	

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)

取り組み 3-3

主要な乗り場での待合環境の充実

町内の主な施設（店舗、病院、観光施設など）のバス停において、待ち時間が長い場合でも利用客が快適に過ごせるようにするため、施設内の待合環境や、バス案内情報の充実に取り組みます。

取り組みの内容

- 利用客が、なるべく施設内で待てるようにするため、主な店舗、病院、観光施設などの建物内の待合スペースにバスの時刻表等の案内情報を掲示すること、また、敷地内にタクシーが乗り入れ待機できるようにすることについて、町が施設関係者への打診を行います。
- バスが到着する直前まで建物の中で待てるようにするため、主な店舗、病院、観光施設などの待合スペースに、紙媒体による掲示のほか、簡易なタブレット端末やテレビ画面などを設置して、バスの現在位置がわかる「リアルタイム位置情報」を表示するなど、利用客層に応じた情報提供の方策について、町とバス事業者が可能性を検討します。
- 本町のバスの拠点となるような乗り場付近（片貝駅・西の下付近、サンライズ九十九里、海の駅九十九里など）に、既存施設や空きスペースなどを活用して、バス待合スペースと案内情報スペースをかねた、簡易な施設を設けること（小さな拠点づくり）について、町と関係者が可能性を検討します。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (施設・観光の 関連部門と連携)	● (運行情報の提供)	○ (施設関係者)	

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)



取り組み
3-4

人にも地球にもやさしい利用環境の充実

高齢化が進むことをふまえ、本町の公共交通全体として、人にも地球にもやさしい利用環境を創出するため、車両、乗り場のユニバーサルデザインや、低エネルギー化に取り組んでいきます。

取り組みの内容

- 車両の乗り降りが利用の抵抗とならないよう、車両の更新時のノンステップバス、低エネルギー車両の導入を検討するとともに、乗り場などのユニバーサルデザインについて継続的に取り組んでいきます。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (地球環境・施設の 関連部門と連携)	●		

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)

方向性 4

クルマだけでなく、使える時には少しずつでも公共交通を考えるように、意識の変容を促していきます。



取り組み 4-1

町民へのPR活動

本町では、公共交通を使える場合にも利用しない町民が大半であるのが現状です。そのため、クルマしか使わない外出スタイルの見直しと、使える時に少しずつでも公共交通を使うことについて、PR活動を積極的に行い町民に呼びかけていきます。

取り組みの内容

- 町の広報媒体、イベントでの広報活動などにより、公共交通の大切さと厳しい運営の現状を町民に知っていただき、使える時に少しずつでも利用するよう継続的に呼びかけます。
- バスの車内、町の主要な施設などに児童の絵を展示する「お絵かき展」など、家族等と一緒に公共交通に親しめる催し等を企画します。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (イベント、児童福祉の 関連部門と連携)	○ (PR等の連携、企画への協力)	○ (幼稚園等)	● (取り組みの理解、 積極的な参加、)

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)



取り組み 4-2

免許返納を考える人へのサポート

高齢者がクルマ中心の外出スタイルを見直し、安心して運転免許の返納を検討できるよう、公共交通を利用する機会の提供による動機付けを行っていきます。

取り組みの内容

- 運転免許証を返納した町民へのサポートとして、本町のすべてのバス、タクシー事業者が取り組む「安全運転免許自主返納支援措置」による乗車運賃の割引を継続するとともに、警察と町が協力し、積極的に町民にPRします。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
○ (PR活動)	●	○ (警察)	● (積極的な利用)

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)



取り組み
4-3

町民が乗る機会・考える機会の提供 (モビリティ・マネジメントの取り組み)

本町では、クルマ中心の外出スタイルとなっている町民が大半であり、公共交通をほとんど利用しない人が多いのが現状です。将来まで公共交通を持続するため、モビリティ・マネジメントの取り組みとして、「乗る機会」、「考える機会」を提供することにより、公共交通の大切さと厳しい運営状況の理解を促し、クルマしか使わない外出スタイルの見直しと、使える時に少しずつでも公共交通を利用する意識の醸成を図っていきます。

*「モビリティ・マネジメント」：コミュニケーション施策を中心として、“知る機会”、“考える機会”、“体験する機会”を継続的に提供することにより、クルマ利用だけを考える状態から、公共交通や徒歩・自転車などクルマ以外の利用を考える状態へと、少しずつ自発的に、意識や行動が変わり、定着するように促す取り組み。

取り組みの内容

- クルマを運転しない年齢のうち公共交通への意識を育むため、町が学校や地域のクラブなどに呼びかけ、バス事業者と連携し、実際のバス車両を用いた「小学生等の乗り方教室」を行います。
- 町とバス事業者が協力し、学校、地域などに対し、行事、クラブ活動、地域の催しなどで出かける際に路線バス、高速バスを利用していただくようPRを行います。
- これまでバスを利用してこなかった人に、乗車する機会を提供するため、町とバス事業者が連携し、高齢者などの乗車体験会を企画します。
- 実施日または期間を限定し、バス等に無料で乗車できる「バス無料デー」の企画または「お試し乗車券」の進呈などについて検討します。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (学校・地域・福祉 関連部門と連携)	● (企画への参加、協力)	● (学校・クラブ、 自治会・町内会等)	● (積極的な参加、利用)

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)



高齢化が進む地区等で、これからの外出手段について地区の住民が中心となり主体的に「考える機会」をサポートすることによって、地区住民全体としての公共交通に対する意識の醸成を図っていきます。

取り組みの内容

- 住民が主体的に取り組もうとする地区を対象として、住民の要望を聞く場としてではなく、地域のこれからの外出手段や公共交通について住民が主体的に考える機会とすることを目的として、町と自治会などが連携し、各地区での「意見交換会」を定期的を開催します。また、住民が中心となったお出かけサービス（例えば、タクシーの相乗りや助け合いによる送迎サービスなど）の取り組みに対し、検討段階の会合にアドバイザー（コンサルタントなど）を派遣するなど、「考える機会」やその後の試験運行を町がサポートする仕組みについて検討します。状況によってはタクシー事業者等との調整等をふまえた上で、モデル的な地区で先行的に試行します。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用者
● (サポートの仕組みの検討)	○ (調整等)	● (自治会・町内会等)	● (積極的な参加、利用)

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)

方向性 5 まちの賑わいに貢献する方策を模索します。



取り組み
5-1

観光等に便利な運行方法の工夫・試行

九十九里浜をはじめ、本町には複数の観光やレジャーのスポットがあります。なるべく多くの人に本町へ来訪していただけるようにするための路線バスの運行方法等について可能性を検討し、状況に応じて実証運行などを行いながら取り組んでいきます。

取り組みの内容

- 今年度の実証運行を行った高速バスの「海の駅九十九里への乗り入れ」について、バス事業者と町、観光関係者が協力しながら可能性を検討します。
- 観光客向けの店舗などの立地が進んでいる「九十九里ビーチライン」(産業道路)の路線バスの運行や他の手段による移動サービスの提供について、夏季におけるニーズの調査を行うなど、運行事業者等や町、観光関係者が協力しながら可能性を検討します。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
○ (PRの協力)	●	○ (観光関係者)	

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)



取り組み
5-2

観光と公共交通が連携した企画等

九十九里浜など本町の魅力的な観光、レジャーのスポットへ、なるべく多くの人々が公共交通を使って来訪し、地域の周遊や町内の回遊をしていただけるよう促すため、公共交通と観光が連携した企画などに取り組みます。

取り組みの内容

- 本町の観光資源を活かした魅力ある企画きっぷやツアー、イベントなどについて、町の呼びかけにより、公共交通と観光などの関係者が定期的に意見交換を行い、可能性を検討します。有望なアイデアがある場合には試行などを行います。
- 町の呼びかけにより、バス、タクシー事業者や観光関係者と意見交換し、例えば、周遊バ

ス、観光タクシーや、小型モビリティ（EVカーシェア、Eバイク、電動キックボードのレンタルなど）など、周遊や回遊に便利な移動手段の導入の可能性について、ニーズの調査等も行いながら検討します。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (観光関連部門と連携)	● (意見交換への参加)	● (観光関係者)	

(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)



取り組み
5-3

その他、来訪者の利便性の充実

本町へ、公共交通を利用して来訪した人の利便性を向上するとともに、リピーターを確保するため、バス、タクシーなどの利用環境の充実、民間のサービスや新たな技術の活用に取り組んでいきます。

取り組みの内容

- 民間による検索サイトやアプリなどで経路を検索できるようにするため、バスの運行情報の「オープンデータ化」について検討し順次取り組むとともに、定期的に更新します。
- 高校生だけでなく観光客からも要望の多いバス、タクシーの「キャッシュレス化」(ICカード、モバイル回数券など)について、バス、タクシーの事業者が継続的に検討するとともに、町も支援の方策を検討します。
- その他、民間のアイデアによる多様なスマホアプリや、MaaS、自動運転など将来的な導入の可能性がある技術の動向について、町や運行事業者が継続的に情報収集を行います。

この取り組みの主体

九十九里町	公共交通事業者	関係機関・団体等	町民・利用客
● (観光関連部門と連携)	●		







(●：取り組み主体 ○：状況に応じて連携・協力)

3. 将来の公共交通ネットワーク

本町の公共交通は、現状のネットワークの構成を活かし、地域の実情に応じた運行方法の見直しや、新たな公共交通サービスの可能性、公共交通以外の送迎サービスとの連携などについて検討しながら、将来まで持続し、町民の日々の暮らしやまちづくりを支えていくことをめざします。また、運行を持続するだけでなく、わかりやすさや待合い環境の充実、町民の意識の醸成を通じた利用促進を図るとともに、観光などとの連携をめざした取り組みを行います。

《将来の公共交通ネットワークのイメージ》



九十九里鐵道(路線バス) 《補助対象路線系統》	
九十九里鐵道(九十九里ライナー)	
ちばフラワーバス(路線バス)	
小湊鐵道(大網サンライズ九十九里線) 《補助対象路線系統》	
九十九里町役場	
主な観光施設	

《国の地域公共交通確保維持事業（幹線補助）について》

小湊鐵道の大網サンライズ九十九里線は、鉄道駅（JR 大網駅）に接続するとともに、本町と大網白里市をつなぎ、日常生活における移動を確保するとともに、サンライズ九十九里への観光の移動を確保しています。

九十九里鐵道の片貝循環豊海線は、鉄道駅（JR 東金駅）に接続するとともに、本町と東金市をつなぎ、日常生活における移動を確保するとともに、九十九里浜への観光の移動を確保しています。

いずれの路線も、地域間の幹線として、本町の公共交通ネットワークを構成する上で特に重要な役割を担っています。一方で、事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持改善事業（幹線補助）により運行を確保・維持する必要があります。

系統	起点	経由地	終点	運行形態	取組みの主体	補助事業の活用
小湊鐵道 大網サンライズ九十九里線	大網駅	白里海岸	サンライズ九十九里	路線定期運行	小湊鐵道 (運行主体) 九十九里町 大網白里市	幹線補助
九十九里鐵道 片貝循環 豊海線	東金駅西口	家徳・幸田 家徳・サンピア サンピア・幸田	東金駅西口		九十九里鐵道 (運行主体) 九十九里町 東金市	

《本町の九十九里町路線バス海岸線運行事業について》

ちばフラワーバスの海岸線は、鉄道駅（JR 成東駅）に接続するとともに、本町と山武市をつなぎ、本町民の日常生活における移動を確保するとともに、九十九里浜への観光の移動を確保し、地域間の幹線として、本町の公共交通ネットワークを構成する上で特に重要な役割を担っています。一方で、事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しいため、本町が、乗り合いバス運行に係る経費の一部について、事業者に対する補助を行います。

系統	対象区間	運行形態	団体名	対象キロ程	運行主体
ちばフラワーバス 海岸線	成東駅～運沼～成東海岸、 向渡入口～成東駅	路線定期運行	山武市	23.7km (按分率 75%)	ちばフラワーバス
	成東海岸～作田～向渡入口		九十九里町	7.9km (按分率 25%)	

方向性 1

町の公共交通を将来にわたり持続します。
(バス・タクシー)

●達成イメージ： 本町のバスが持続的に運行している。

公共交通が持続的に運行し、人口減少が進展する状況においても現在と同等以上の利用客数を確保していることを指標とします。

・指標① バスの運行に対する町の補助額

現況値（令和 5 年度）	目標値（令和 10 年度）
2,568 千円／年	2,568 千円／年（現状確保）

・バスの運行に対する町による補助額の合計。

・指標② 九十九里町を運行するバスの利用客数計

現況値（令和 4 年度）	目標値（令和 10 年度）
217 千人／年	217 千人／年（現状確保）

・本町を運行する九十九里鉄道（片貝・豊海循環線、片貝線、豊海線、九十九里ライナー）、ちばフラワーバス（海岸線）、小湊鉄道（高速バス IC カード）の利用客数の合計。

●達成イメージ： 路線バスが、効率的に運行・運営できている。

定期的な見直し等によって運行・運営が効率的になり、運行 1 回当たりの利用客数が増加していることを指標とします。（このことに伴い、収支率も、1 人当たりの費用も良くなります。）

・指標③ 九十九里鉄道の路線バスの運行 1 回当たりの乗車人員

現況値（令和 4 年度）	目標値（令和 10 年度）
5.6 人／便	6.0 人／便（現状以上）

・九十九里鉄道のバス（片貝・豊海循環線、片貝線、豊海線）の年間運行回数の合計に対する延べ利用客数の実績。

方向性 2

地域に見合った外出手段を確保し、
日々のお出かけを便利にする調整・工夫をします。

●達成イメージ：公共交通を利用した外出が増えている。

町民等が日々の外出で公共交通を便利に使えるようになり、多くの方がバスを利用して外出していることを指標とします。

・指標④ 九十九里町を運行するバスの利用客数計（再掲）

●達成イメージ：公共交通がうまく使われている。

町民等が日々の外出で、タクシーをうまく利用していることを指標とします。

・指標⑤ 町内のタクシーの年間利用客数

現況値（令和4年度）	目標値（令和10年度）
10,568 人／年	10,600 人／年（現状以上）

・町内のタクシーの年間利用客数。

・指標⑥ タクシー助成券利用時の平均乗車人数

現況値（令和4年度）	目標値（令和10年度）
1.25 人	1.30 人（現状以上）

・タクシー助成券の実績。

●達成イメージ：地域に見合った外出手段の確保に取り組んでいる。

本町の実情に見合った外出手段（乗合の公共交通の利用が難しい高齢者や障がいのある方などへの外出支援サービス）に継続的に取り組んでいることを指標とします。

・指標⑦ 町が行う外出支援サービスの件数

現況値（令和4年度）	目標値（令和10年度）
—	1 件／年

・町が行う乗合の公共交通の利用が難しい高齢者や障がいのある方などへの外出支援サービスの件数。

・「九十九里町総合計画」の指標と整合

方向性3

使ってみたくなる利用環境をつくります。
(わかりやすさ・やさしさ)

●達成イメージ：公共交通のことを知っている町民、使って満足している町民が増えている。

公共交通全体のわかりやすさ・やさしさが充実し、町内の公共交通に対する町民の認知度、満足度が向上していることを指標とします。

・指標⑧ 町内のバスの認知度（知っている町民の割合）

現況値（令和5年度）	目標値（令和10年度）
24%	50%以上

・町民アンケート結果（R5）による（町全体の路線・行き先等を）“おおむね知っている”との回答の割合

・指標⑨ 町内の公共交通に対する全体的な満足度

現況値（令和5年度）	目標値（令和10年度）
7%	20%以上

・町民アンケート結果（R5）による「満足」「やや満足」との回答の計
（満足、やや満足以外の回答には、“わからない”との回答も含まれている）

方向性4

クルマだけでなく、使える時には少しずつでも公共交通
を考えるように、意識の変容を促していきます。

●達成イメージ：公共交通への意識の醸成を主旨とする取り組みが着実に行われている。

町民に対しクルマしか使わない外出スタイルの見直し、公共交通への意識の醸成を促す取り組みが着実に行われていることを指標とします。

・指標⑩ 町民の意識の醸成を主旨とする広報、会合等の回数

現況値（令和4年度）	目標値（令和10年度まで）
—	2回/年

・意識の醸成を主旨とする町民への広報、会合等の町による実施回数
・「九十九里町総合計画」の指標と整合

●達成イメージ： 使える時に公共交通を使う外出スタイルが徐々に拡がっている。

意識の醸成を促す取り組みにより、公共交通を使わない町民が減少していることを指標とします。

・指標⑪ 町内のバス・タクシーに乗らない町民の割合

現況値（令和5年度）	目標値（令和10年度）
67%	50%以下

・町民アンケート結果（R5）による（町内のいずれのバス、タクシーにも）「乗ったことがない」または「ほとんど乗らない」との回答の割合

方向性5 九十九里のまちの賑わいに貢献する方策を模索します。

●達成イメージ： まちの賑わいに貢献する公共交通の取り組みが着実に進んでいる。

観光と公共交通が連携した取り組みが着実に進んでいることを指標とします。

・指標⑫ 公共交通が連携したバスの運行、集客や周遊・回遊の企画への取り組みの件数

現況値（令和4年度）	目標値（令和10年度）
—	1件/年

・公共交通が連携したバスの運行、イベント・キャンペーン・企画等の件数

《進捗管理》

計画全体の取り組みの進捗確認や結果の評価・検証を行う主体が必要であり、「九十九里町地域公共交通会議」において行います。

《今後の取り組みのスケジュール》

取り組みごとの具体的な実施体制等について調整・決定し、令和6年度(2024年度)以降の5年間で、具体的な実施内容や方法の検討、準備等を行いながら取り組みを進めます。必要に応じて試行、実証運行をふまえながら取り組み、状況によっては計画の見直しも適宜行っていきます。取り組みの進捗状況や、指標とした数値の経過を把握可能なものについて毎年確認を行い、最終的な目標の達成状況を令和10年度(2028年度)に検証します。

取り組み		計画期間				
		2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
1. 町の公共交通（バス・タクシー）を将来にわたり持続します。						
1-1	路線バス・高速バスの利用促進と持続的な運行	継続、順次見直し				
1-2	日常的な利用客（固定客）の確保	継続、検討、PR活動				
1-3	効率的・安定的な運用のための方策の検討・実施	継続、検討	試行等			
2. 地域に見合った外出手段を確保し、日々のお出かけを便利にする調整・工夫をします。						
2-1	町民の外出手段の効率的な確保	継続、検討	試行・実証運行等			
2-2	町民の外出の利便性向上のための運用・運用方法の工夫	継続、検討、試行等				
2-3	学生等の利便性向上のための方策	継続、検討				
2-4	福祉と連携した外出等の支援	継続、検討				
3. 使ってみたくなる利用環境をつくります。（わかりやすさ・やさしさ）						
3-1	町の公共交通全体のわかりやすさの充実	検討、順次実施				
3-2	乗り場での案内（現地でのわかりやすさ）の充実	検討、順次実施				
3-3	主要な乗り場での待合環境の充実	検討、試行等				
3-4	人にも地球にもやさしい利用環境の充実	検討、順次実施				
4. クルマだけでなく、使える時には少しずつでも公共交通を考えるように、意識の変容を促していきます。						
4-1	町民への広報PR	検討、継続的に実施				
4-2	免許返納を考える人へのサポート	検討、継続的に実施				
4-3	町民が乗る機会・考える機会の提供 （モビリティ・マネジメントの取り組み）	検討、継続的に実施				
4-4	地域主体で考える機会のサポート	検討、継続的に実施				
5. まちの賑わいに貢献する方策を模索します。						
5-1	観光等に便利な運行方法の工夫・試行	検討、実証運行等				
5-2	観光と公共交通が連携した企画等	継続、検討、試行等				
5-3	その他、来訪者の利便性の充実	情報収集、検討、順次実施				

（取り組みの検証）

- 実施状況、把握可能な指標を、毎年チェック
- 最終年度に、すべての取り組み、全目標値の達成状況を検証



令和6年（2023年）3月 九十九里町地域公共交通会議

